

604-38



38

複製

「ブラジルの珈琲生産及取引状況」
附、世界の珈琲生産と其の消費
外務省

Kodak Gray Scale

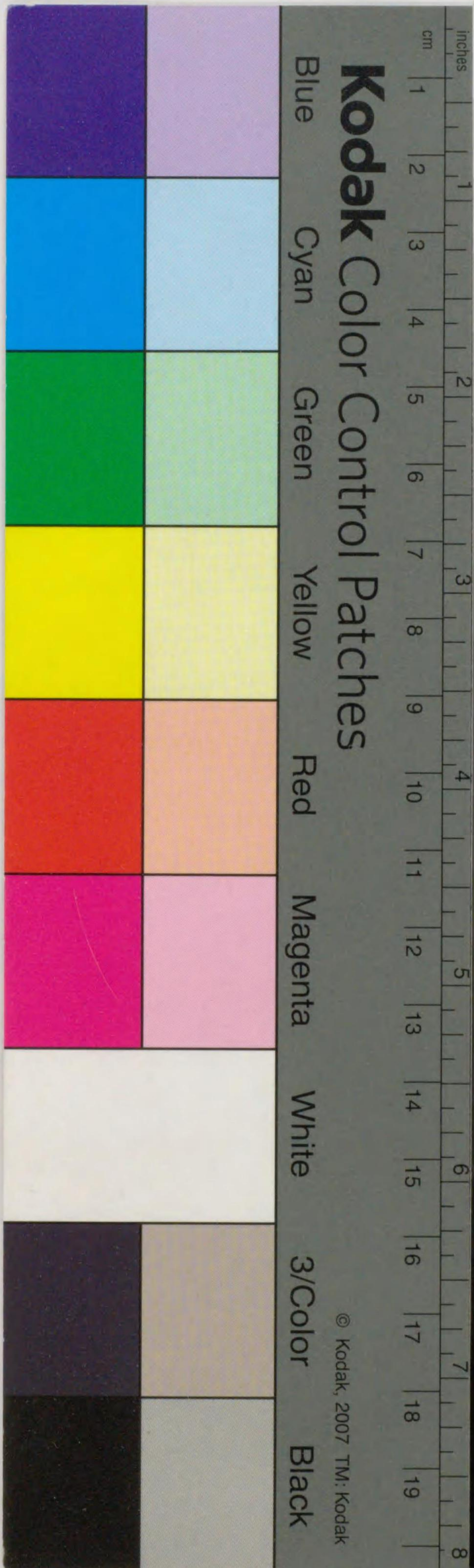
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



© Kodak, 2007 TM: Kodak

昭和五年二月

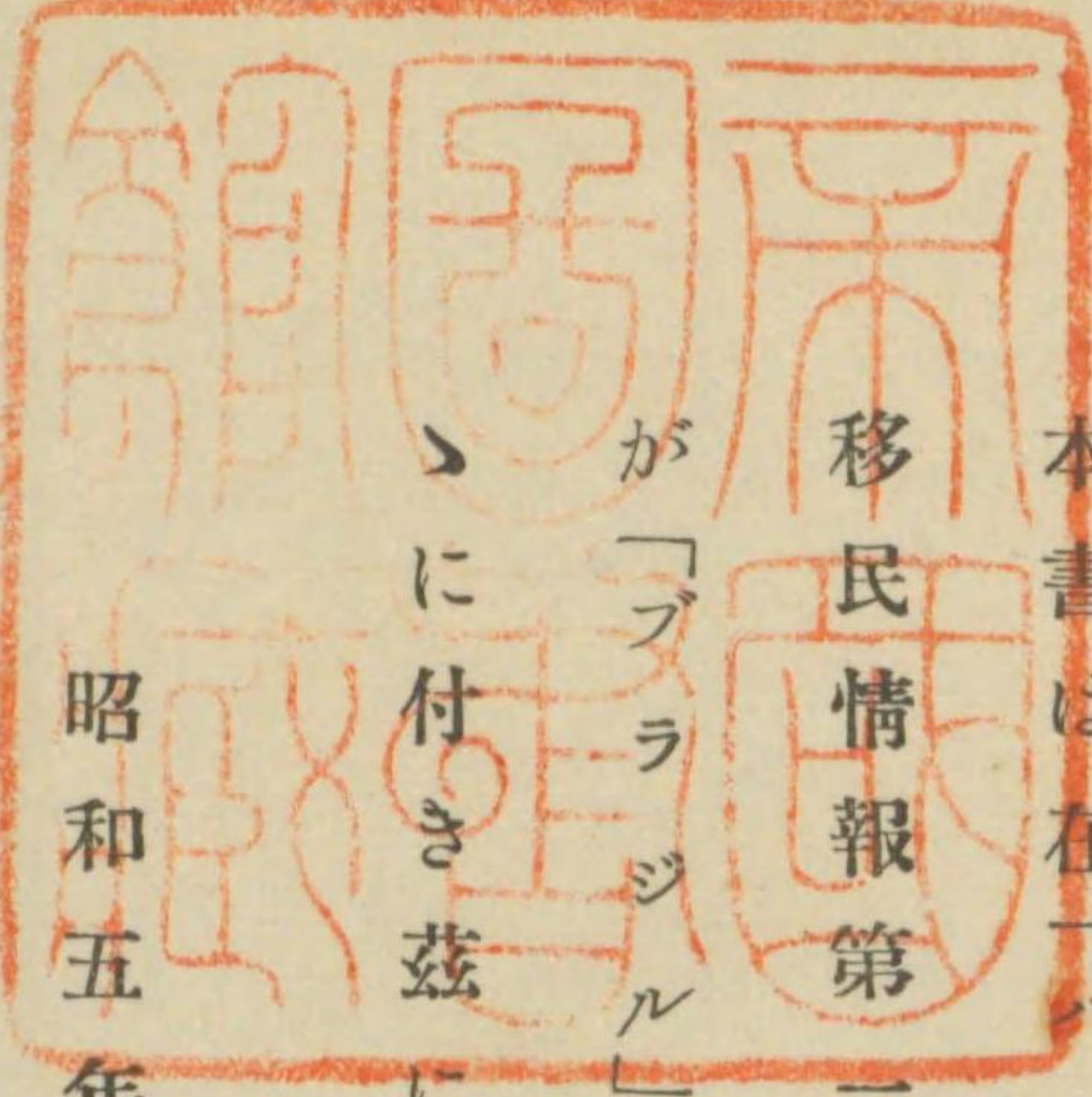
「ブラジル」の珈琲生産及取引状況

附、世界の珈琲生産と其の消費

別冊
編

外務省
通商局

604-38



昭和五年二月

例言

本書は在「パウル」領事濱口光雄の調査報告にして當局編纂
移民情報第一卷第十一號及第二卷第一號に分載せるものなる
が「ブラジル」の珈琲生産及取引狀況研究の好資料と認めらる
に付き茲に一括印刷に附することゝ爲せり。

發行所寄贈本



通商局第三課

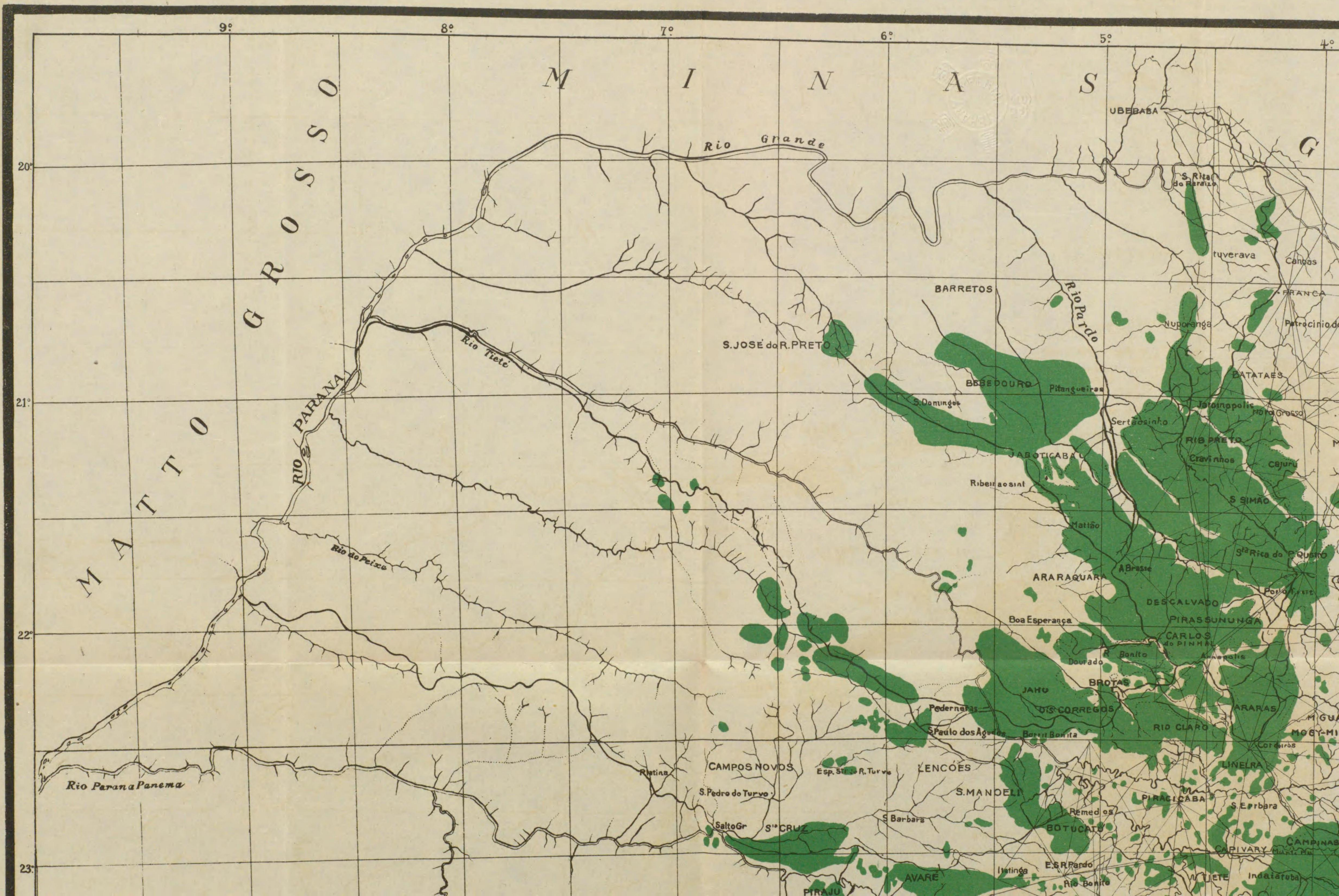


CARTA
DO
ESTADO DE S. PAULO
Mostrando a lavoura de café
Organisada pela
COMISSÃO GEOGRAPHICA E GEOLOGICA
DO
ESTADO DE S. PAULO
ESCALA 1:2000,000
1922



圖地培菽珠珈州ロウパンサ

東京府立図書館蔵本



9°

8°

7°

6°

5°

4°

MINAS GERAIS

MATTO GROSSO

Rio Grande

Rio Tiete

RIO PARANA

Rio do Peixe

Rio Parana Panema

UBERABA

S. Rita do Paraiso

tuverava

Canas

BARRETOS

Rio Pardo

S. JOSÉ do R. PRETO

Nuporanga

Patrocínio

BEBEDOURO

Pitangueiras

ATATAES

S. Domingos

Jatopolis

Mora Grossa

JABOTICABAL

RIO PRETO

M

Ribeirão sint

Cravinhos

Cajuru

Matão

S. SIMÃO

ARARAQUARA

A. Brasse

S. J. do R. Quinho

Porto Firme

Boa Esperança

DESCALVADO

PIRASUNUNGA

CARLOS do PINHAL

Dourado

R. Bonito

A. Anapolis

JAHU

BROTAS

ARARAS

MIGUA

Pedernais

DISCORREGOS

RIO CLARO

MOGI-M

S. Paulo dos Agudos

Barr. Bonita

Cordeiros

CAMPOS NOVOS

LENÇÓES

LINERA

S. Pedro do Turvo

Esp. S. M. do R. Turvo

S. MANOELI

PIRACICABA

S. E. Barbara

Salto Gr

S. CRUZ

S. Barbara

BOTUCATO

CAMPINAS

PIRAJU

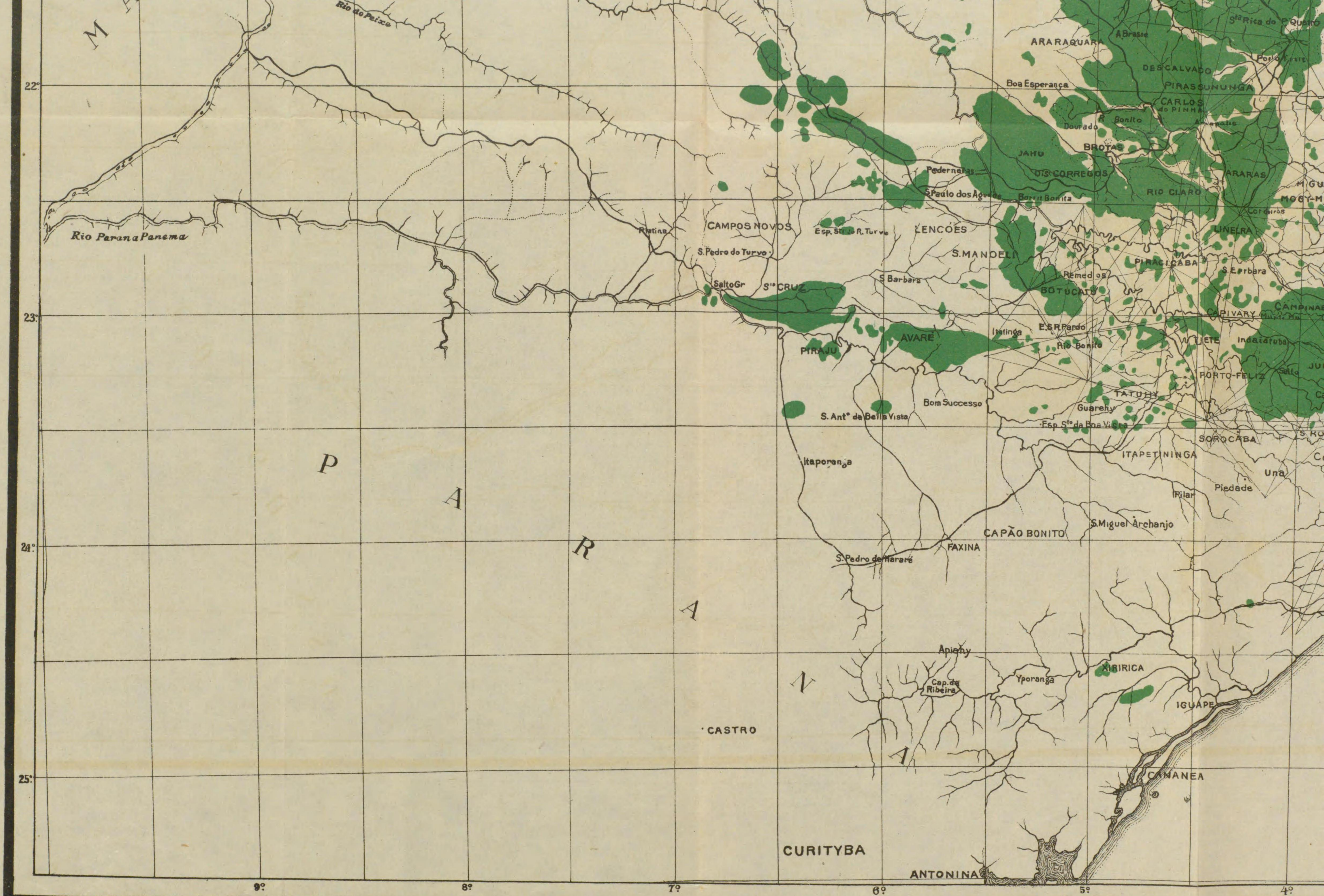
AVARE

Itatinga

E. S. Pardo

W. TETE

Indaítuba



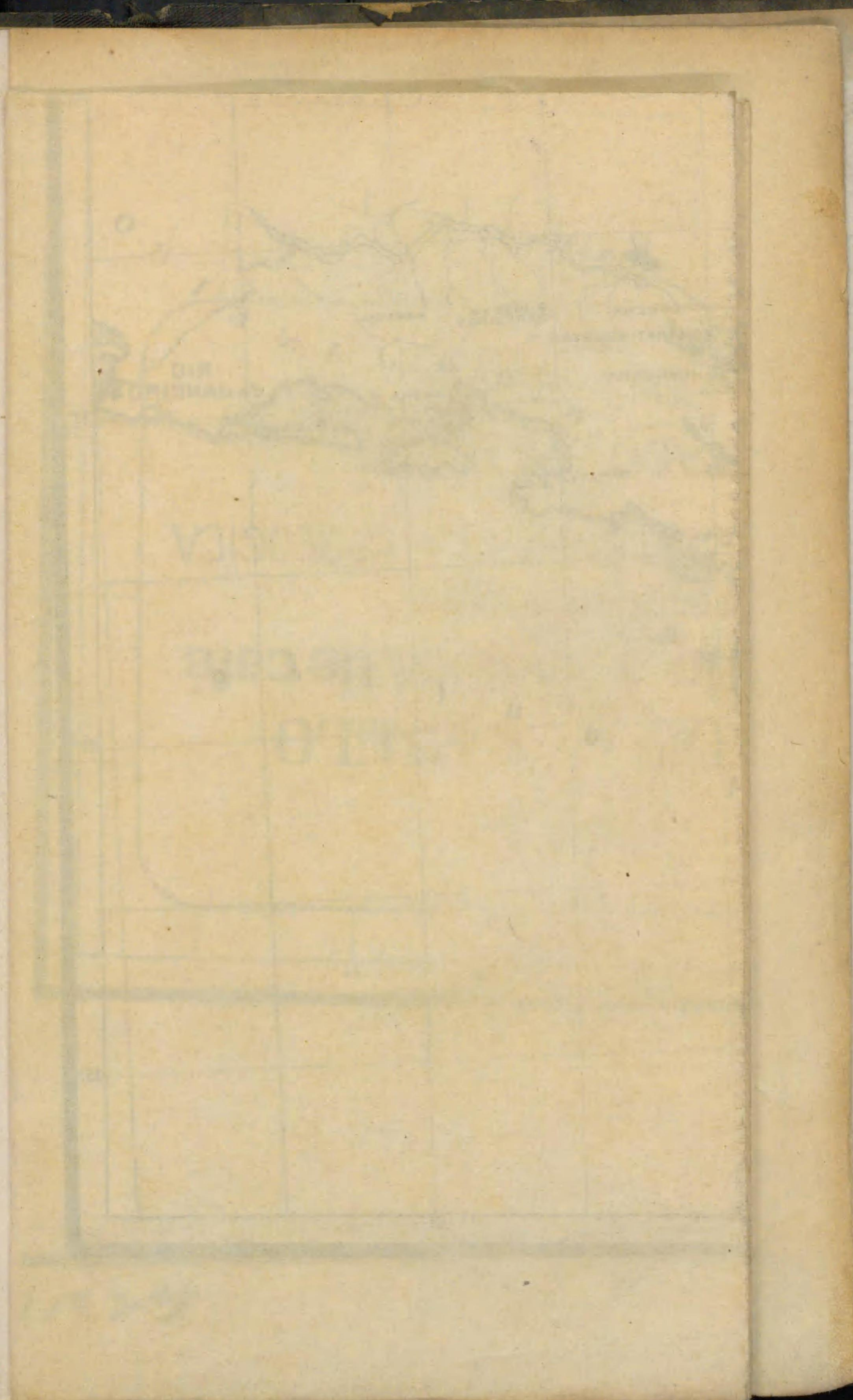
圖地培菽琳珈州ロウパンサ

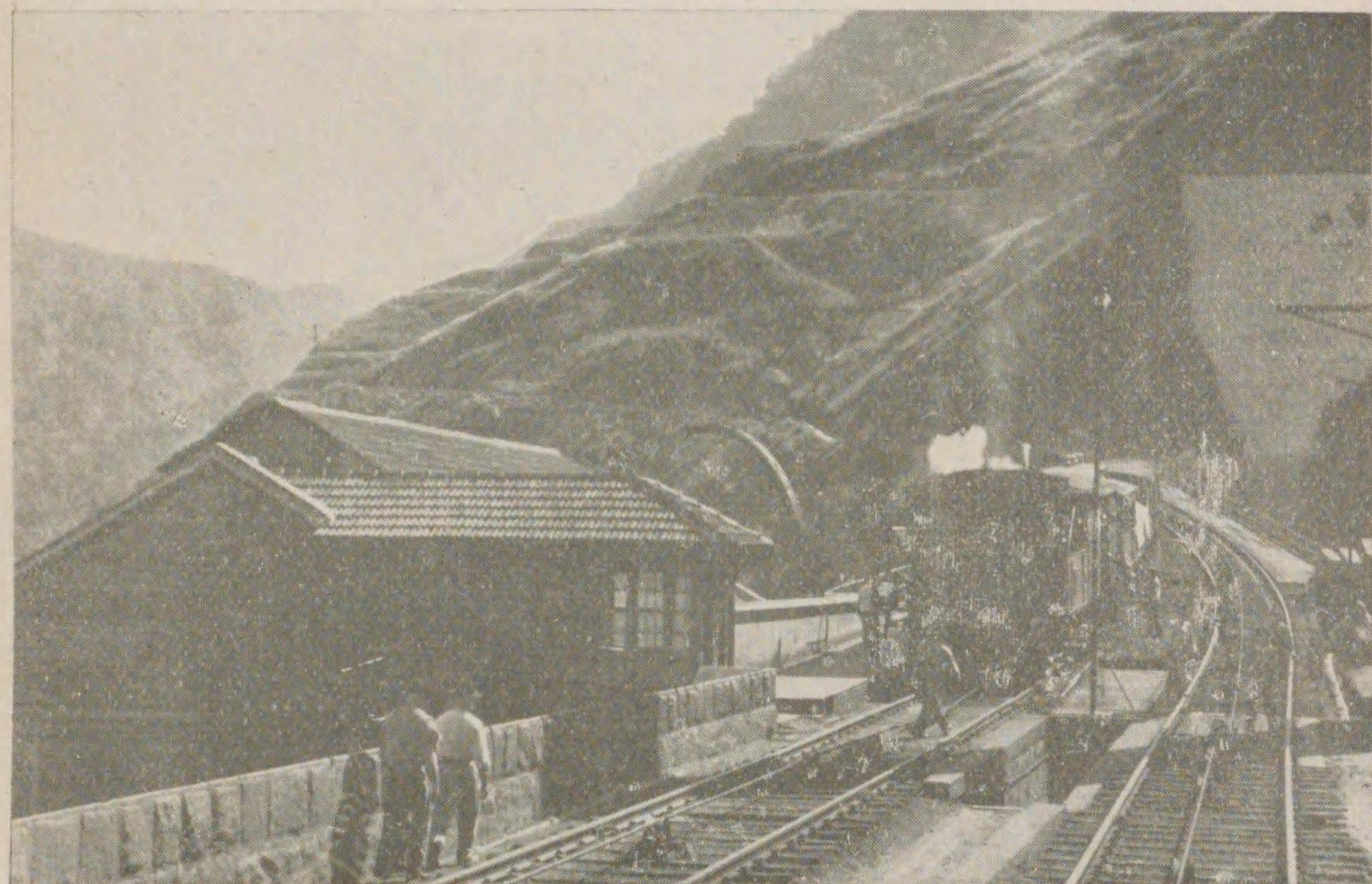


取採珙珈



燥乾珙珈

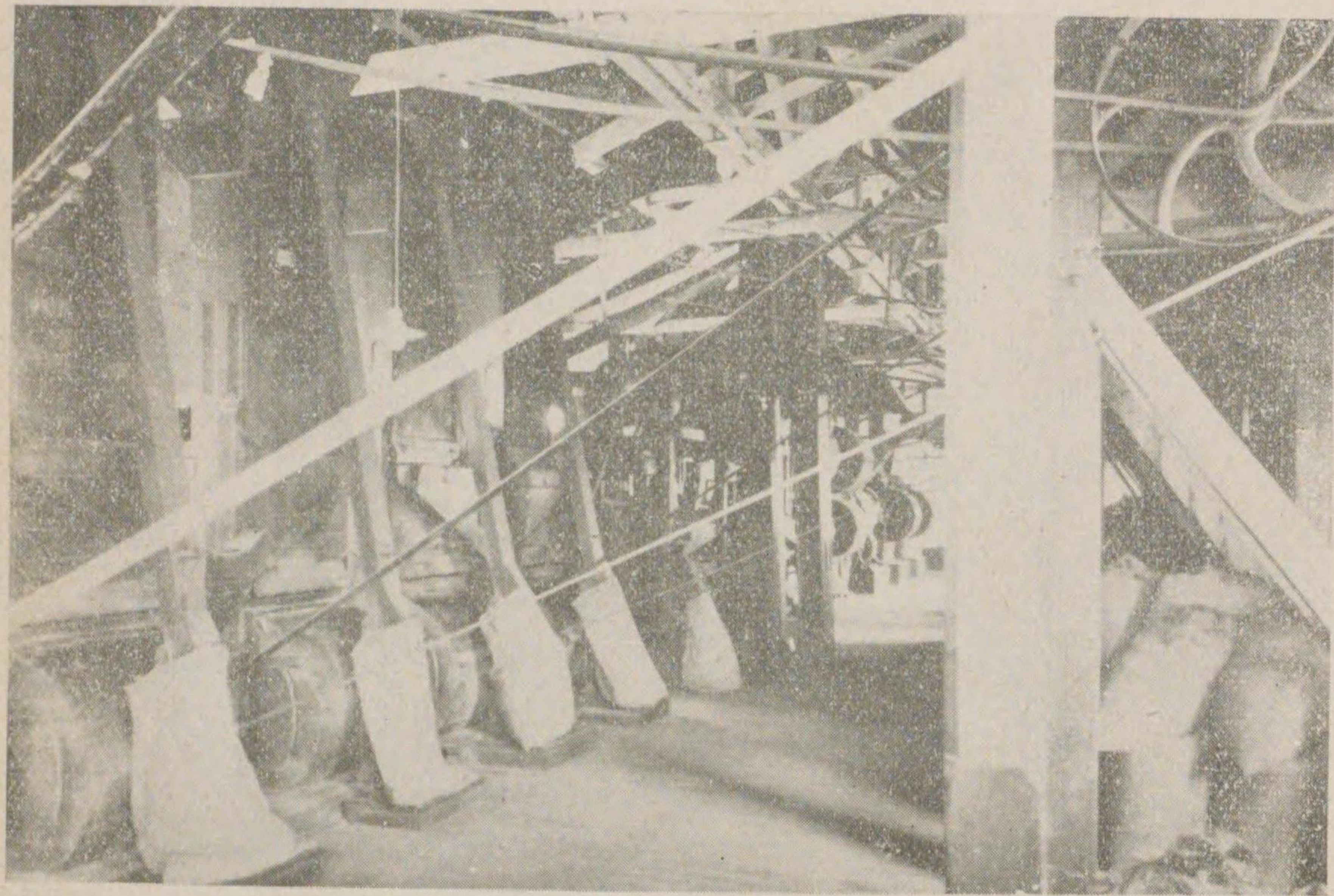




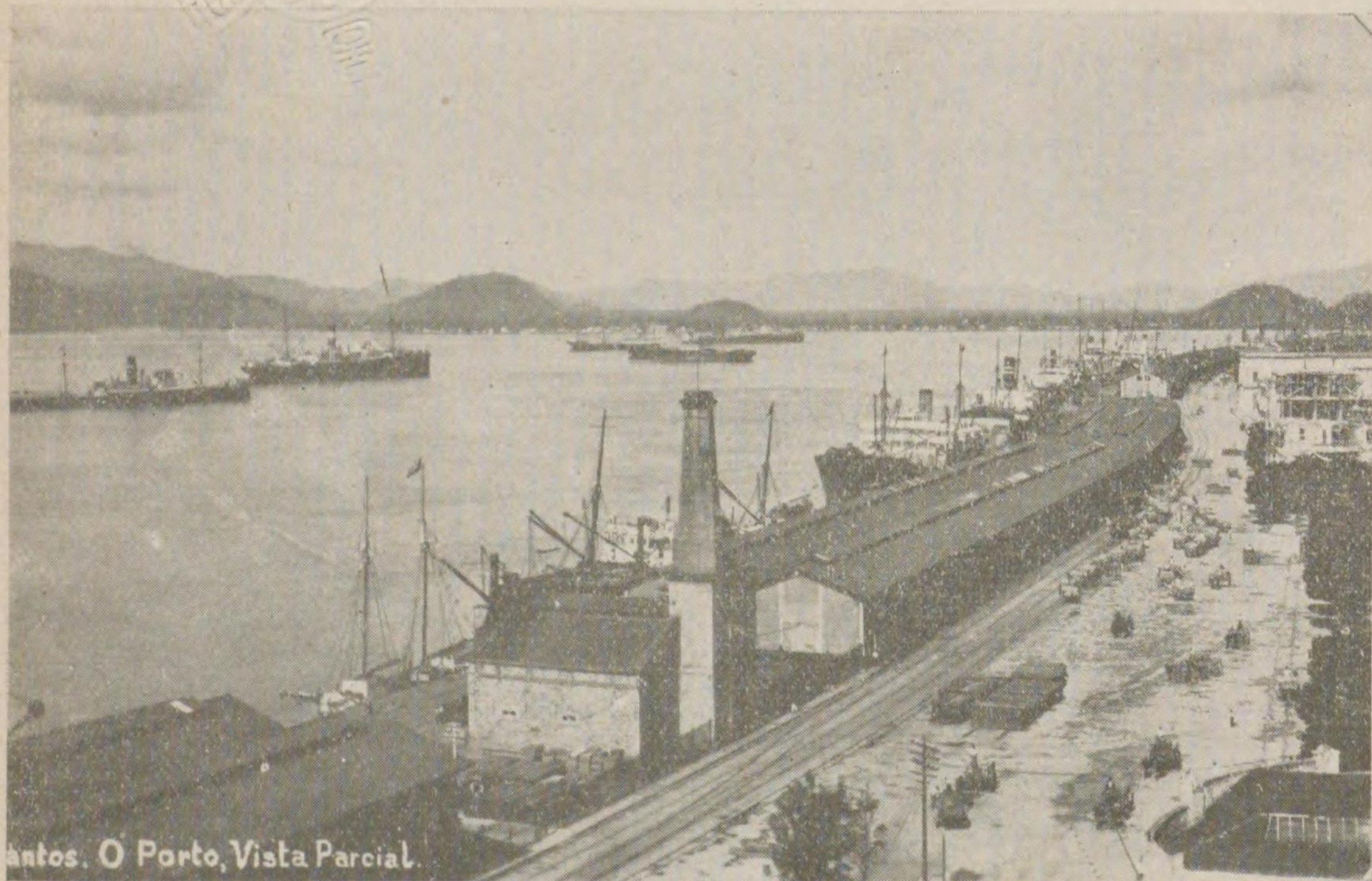
道鐵ロウパンサ



(港ストンサ)業作合混琲珈



（港ストーンサ）選精再琲珈

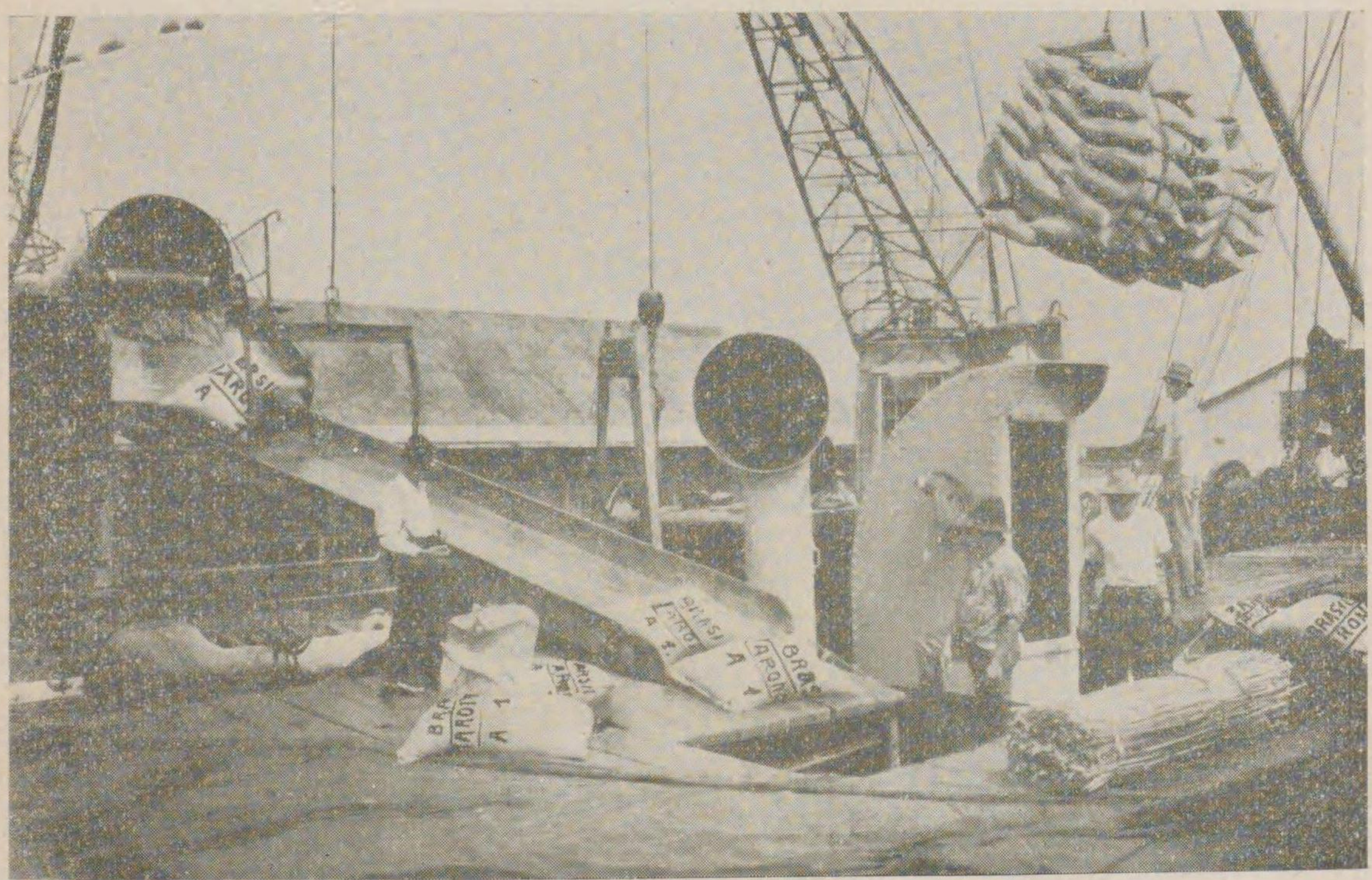


antos. O Porto, Vista Parcial.

（景ノ積船琲珈）壁岸港ストーンサ



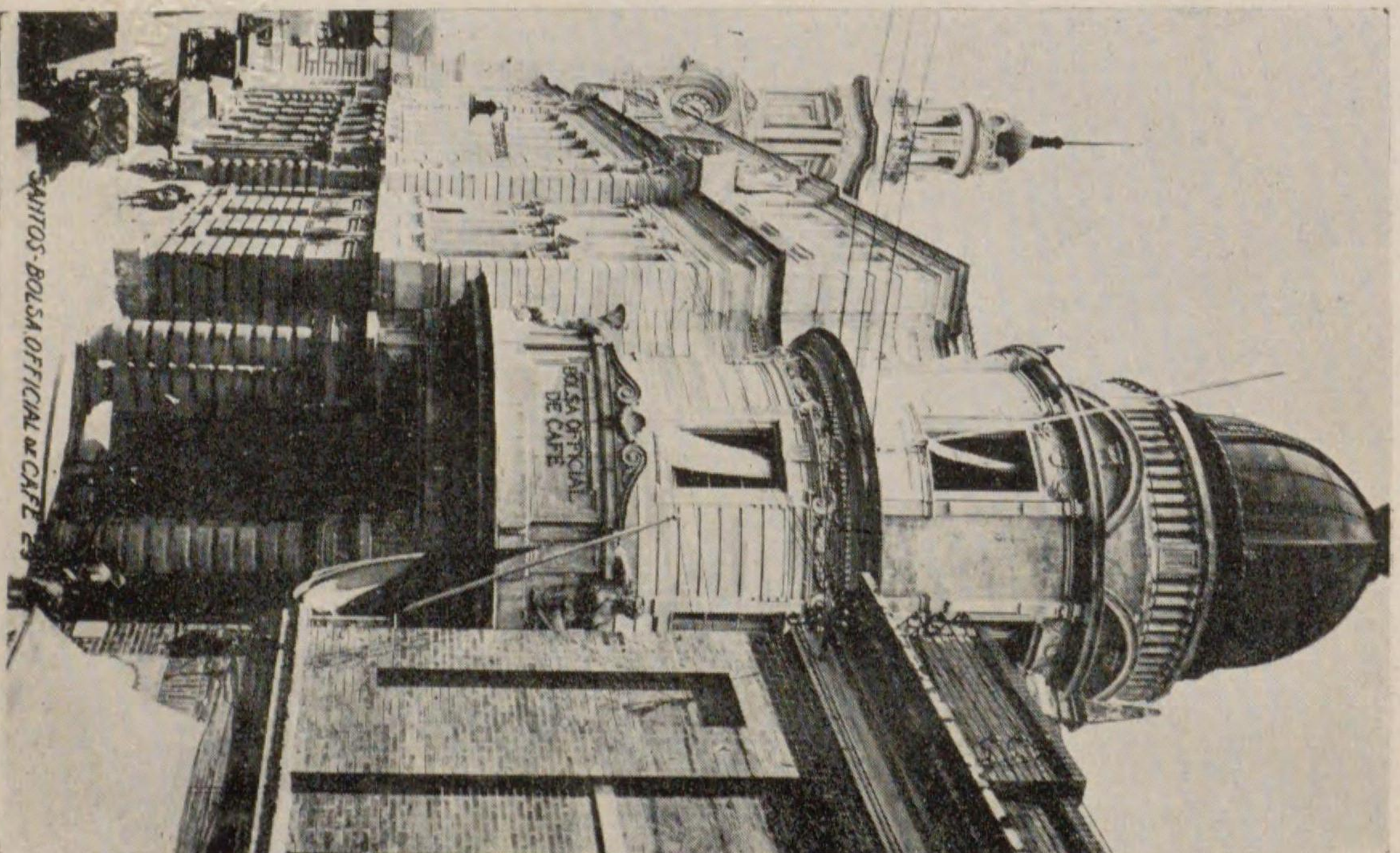
出積 珙 珈



込積 珙 珈



實 珈 排



所 引 取 珈 排 斯 托 ン サ

「ブラジル」の珈琲生産及取引状況

附、世界の珈琲生産と其の消費

目次

一、緒言	一
二、珈琲樹及珈琲實	四
三、珈琲栽培地	八
四、「サンパウロ」州の珈琲栽培	一三
五、生産費及諸経費	二一
六、珈琲の在荷と價格	二八
七、價格調節と輸送制限	三二

2
八、「サントス」港に於ける珈琲取引……………三九

九、珈琲の輸出状況……………五一

(附録)世界の珈琲生産と其の消費……………五九

(備考)

- (一) 面積「アルケール」(Alqueire)「サンパウロ」州に於ては縦長二四二「メートル」幅員一〇〇「メートル」にして我約二町半
- (二) 容積「アルケール」は五十「リットル」
- (三) 珈琲「アローバ」(Arroba)は十五庇
- (四) 「サントス」市場に於ける珈琲「アローバ」は精製珈琲十庇
- (五) 「リオ・デ・ジャネイロ」市場「アローバ」は十五庇
- (六) 精製珈琲一袋は六十庇正味
- (七) 皮付珈琲一袋は精製珈琲の約二十二庇半
- (八) 伯貨「ミルレス」(「コント」)は一千「ミルレス」は邦貨約二十五錢
- (九) 珈琲農年度は七月一日に始まり翌年六月三十日に終る
- (十) 統計數字に一致せざる處あるは其出所を異にするか又は四捨五入の結果なり

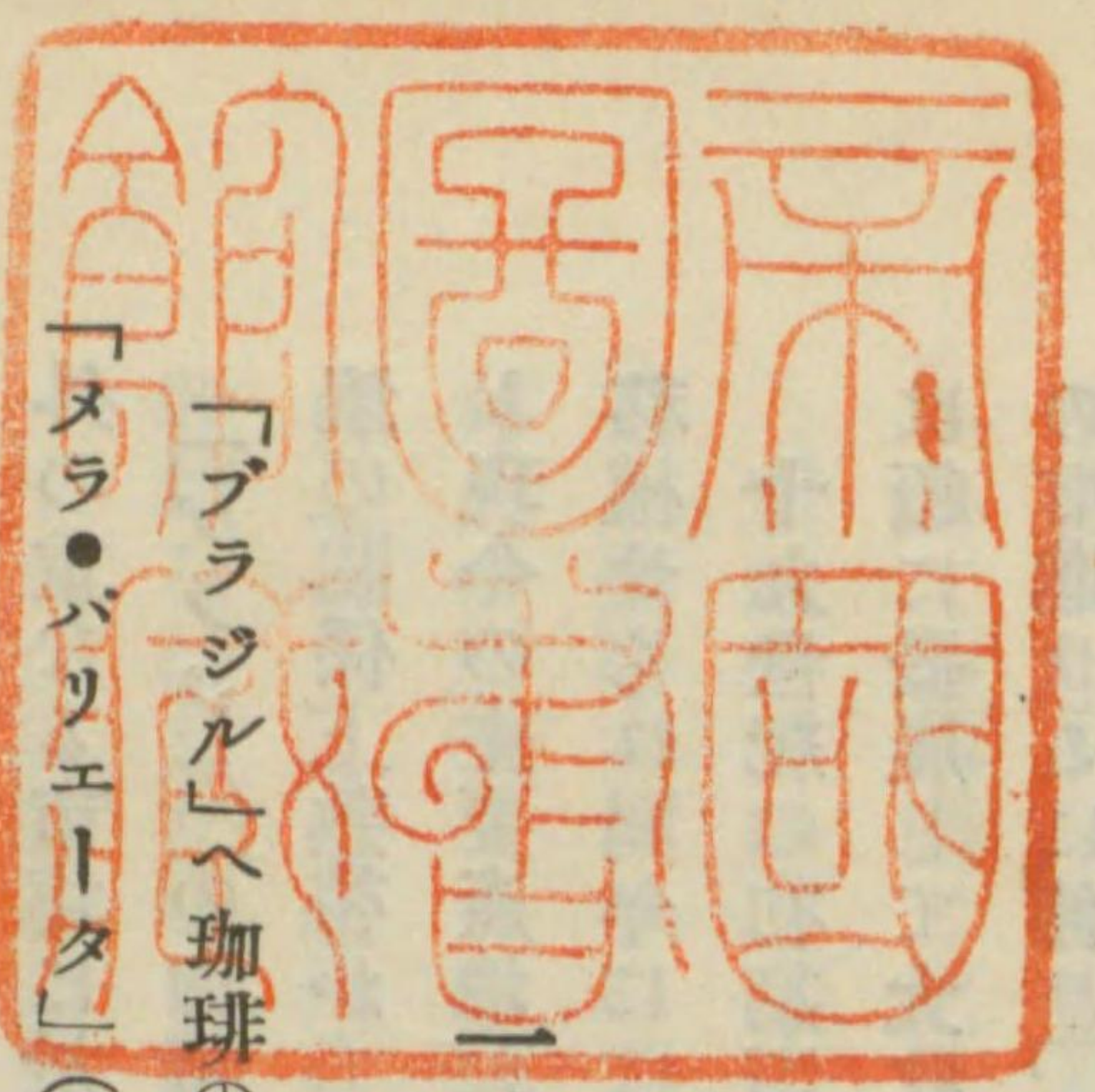
「ブラジル」の珈琲生産及取引状況

附、世界の珈琲生産と其の消費

二、緒言

「ブラジル」へ珈琲の移植せられたのは一七二七年五月佛領「ギアナ」の「カエンナ」(Cayenna)から「マラ・バツヘータ」(Sargent-Mór Francisco de Mella Palheta)が數本の苗木を持ち歸つて「ブラ」州「ベレン」(Belem)市へ植えたのが最初のもので一般に信ぜられて居る。

去る一九二七年は「ブラジル」へ珈琲が移植されてから丁度二百年目に當るので「サンパウロ」州では此機會を利用して各州聯合の珈琲渡來二百年記念共進會を同州の首府「サンパウロ」市に開き「サンパウロ」州の珈琲發展に貢献した元「カンピーナス」農事試験所長「ダツフェール」の銅像を「カンピーナス」市



に「リベロン・プレート」珈琲地帯の開発者「シユミット」の銅像を「リベロン・プレート」市に建て又「サントス」商業會議所には記念銅標を取付けて各々其の功績を頌する除幕式等が行はれ「ブラジル」珈琲に對する内外國人の注意を喚起すると共に「ブラジル」珈琲當面の問題たる「品質の良化」に就ては州内の各農會並諸學校に於て記念祭を催し専ら珈琲の加工に關する講演會を開かしめ又「販路の擴張」に就ては海外の重なる市場に於て「ブラジル」珈琲の宣傳に努めしめた。

「ブラジル」の珈琲栽培は前述の通り北部「パラ」並「アマゾナス」州等から起つたものであるが氣候及土壤の關係上熱帯から漸次亞熱帯に移動し一七七〇年頃には「リオ・デ・ジャネイロ」州に擴まり更に夫れより現今の主要産地たる「サンパウロ」「ミナス・ジエラエス」「エスピリト・サント」及「バイーア」の諸州へ移植せられ同年には「パラ」州から少量の珈琲が初めて歐洲へ輸出されたことである。

十九世紀の初期頃迄は珈琲は經濟的に餘り重要な價值あるものでは無かつたが一八四二——三年度には頓に發展して大收穫を得るに至つた當時其の年産額は約二百萬袋であつたが其の後北米に於ける需要の増進せるに伴ひ「カンピーンナス」地帯の珈琲栽培が絶頂に達した一八八五——六年度には世界總生産高の一千萬袋に對し「ブラジル」は六百萬袋其の中「サンパウロ」州は三百萬袋を産出したので俄然生産過剰を來し價格は漸次下落を告ぐるに至つたに拘らず「リベロン・プレート」地帯の急速なる發展によつて一九〇六——七年度には世界の總生産高二千四百萬袋に對し「ブラジル」は實に二千萬袋其の中「サンパウロ」州は千五百萬袋と云ふ生産の記録を残し過剰珈琲の處分に困却し居りたる折柄歐洲大戰の開始によりて珈琲の需要は著しく減退し益々窮地に陥りたるが一九一八年七月には「サンパウロ」州未曾有の大

降霜によりて其の翌年度即ち一九一九——二〇年度には「ブラジル」珈琲の生産高は七百五十萬袋其の内「サンパウロ」州は僅に四百萬袋に激減した。

同年には歐洲大戰も終熄を告げ平和克復と共に珈琲の需要は再び逐年累進的に増加して來たが「カンピーンナス」地帯の珈琲樹は大部分既に老齡期に入りたる又前記大降霜の結果に依り「サンパウロ」州の珈琲生産は寧ろ遞減する傾向にありたるのみならず偶々一九二三年頃より爲替相場場の崩落に依り珈琲の市價は年々昂騰する爲茲に「サンパウロ」州に残された所謂新地帯の開発が始まり瞬く間に大森林は焼却されて珈琲園と化した。

新地帯とは「アララクアラ」「ノロエステ」奥「ソロカバーナ」等「サンパウロ」州北西部に位する各地帯を總稱するものであるが「ノロエステ」地帯の開発には邦人も與つて大に力があつた現在同地帯に於て邦人の所有する珈琲樹は約二千五百萬本(内一千萬本幼樹)と算定せられて居る。

「サンパウロ」州に於ける新地帯の珈琲樹が成實期に入つた一九二七——八年度には珈琲史上空前の大收穫を呈した即ち世界總産額の三千六百萬袋に對し「ブラジル」は二千八百萬袋其の中「サンパウロ」州は一千九百萬袋を産し最近一ケ年間の世界の珈琲消費高が二千四百萬袋に増加したと見ても尙且莫大なる生産過剰を示したので市價の暴落は必然來るべきものと一般に憂慮されたるに拘らず「サンパウロ」州珈琲保護局の調節が機宜の措置を誤まらなかつた爲殆ど何等の動搖をも起さしめず此難關を切抜け得たことは稱讚に値する珈琲の生産高は年々の作に著しく豊凶がある爲其の平均を取ること甚だ困難であるが現今商品として市場へ出廻る數量は世界の消費高と略々同數の二千四百萬袋と見られる其の中「ブラジ

ル」の生産高は一千六百萬袋又「サンパウロ」州は一千二百萬袋と見れば大差が無い。左一九二八—
九年度以降「ブラジル」の珈琲製産高を表示する

年次	數量(袋)
一九一八—一九一九年	九、七二二、〇〇〇
一九一九—一九二〇年	七、五〇〇、〇〇〇
一九二〇—一九二一年	一四、四九六、〇〇〇
一九二一—一九二二年	一二、八六二、〇〇〇
一九二二—一九二三年	一〇、一九四、〇〇〇
一九二三—一九二四年	一四、八六四、〇〇〇
一九二四—一九二五年	一三、七二一、〇〇〇
一九二五—一九二六年	一四、〇〇九、〇〇〇
一九二六—一九二七年	一四、一八四、〇〇〇
一九二七—一九二八年	二八、三三四、〇〇〇
一九二八—一九二九年(推定)	一一、〇〇〇、〇〇〇
一九二九—一九三〇年(豫想)	二二、五〇〇、〇〇〇

二、珈琲樹及珈琲實

珈琲樹は茜草科の珈琲屬に入るべき灌木の一種で其の屬名の起原は曾て此植物が野生の状態で繁茂して居つた中央「アフリカ」の「エチオピア」南東部「アブシニア」の「カッフア」(Kaffa)と稱する地方の名に

由來して付けられたものと云ふ説と又「トルコ」語の「Kahveh」から轉化したものと云ふ説とがある。

珈琲樹の種類は其の數二百種にも及ぶと云ふが之を大別すれば「アラビア」「リベリア」及「ロブスタ」の三種に分類される「ペルナンブーコ」州では「リベリア」種を栽培して居るが其の他の「ブラジル」諸州では一般に「アラビア」種を栽培し「リベリア」及「ロブスタ」種は成績良好ならざるものと云はれて居る。

「アラビア」種の中「ブラジル」で見受ける種類のもものは「ブルボン」「マラゴデーベ」「ジャバ」「アマレロ」及「クレオローロ」等で其の中には「ブラジル」で出來た種類のものもある「ブルボン」種は「リベロン・プレート」地帯に栽培せられ霜害に抵抗力が強い爲に今では「サンパウロ」州内で最も廣く栽培せられる様になつた「サンパウロ」州の珈琲樹は一般に八、九及十月(初夏の候)に亘つて略々三回に開花する八月の開花は未だ乾燥期中である爲結實の目的を充分遂げぬ中に落花し十月の開花は多量の雨に會ふ爲之れ亦實を結ばずに散ることが多い最も好ましい開花期は九月であつて此の開花期には開花の状態も常に密で結實も非常に確實であるから生産者は此時期の開花に用意を整へて之れ以外の開花したものゝ果實をも合せて收穫する様に努めるのである。

八月の開花は翌年四月頃には成熟して地上に落ち始めるから樹下に圓形の畔を作つて果實を失はぬ様にする九月の開花は五月には成熟するし此時十月の開花は未熟ではあるが既に充分な果粒となつて居るから珈琲耕地では四月より始めて五、六月を果實の採取期とする此採取期は耕地に於て最も多忙な時期である果實の採取は手で挽ぎ取り既に自然に落ちて居る第一回の開花のものをも一緒に混ぜて採取する

のであるから果粒の外皮は黒、赤及青の三色を呈して居る。

6 「サンパウロ」州産の珈琲が品質粗悪であると云はれる所以のものは此青色の未熟な果粒を一緒に採取する爲であつて勞力不足の結果として已むを得ざることであるが輓近一部の品質向上論者には自然採取 (Colheita Natural) と云ふことが問題とされて居り其採取に使用する器械も發明せられた之は特殊の棒を以て樹幹に振動を與へて成熟した果實のみを揺り落す方法であるが未だ一般には廣く使用されて居ない。

採取せられた果實は之を袋へ入れて乾燥場へ運ぶ乾燥場は煉瓦敷又は「マカダム」の上に「アスファルト」或は「セメント」を掛けた頗る立派なものである天然の流水又は「ポンプ」で汲上げた水の流れを利用して乾燥場の中へ縦横に「キヤナル」を通じて珈琲を上流の水溜へ入れれば成熟した果實は水の上層に浮き然らざるものは下層を流れて自然に區別せられて乾燥場へ出て來る此の間に果實に附着せる塵埃其他の汚物は完全に洗滌される。

「ブラジル」に於ては全然日光乾燥法を採用し火力乾燥法の仕掛けある處は殆ど見られなかつたが近頃に至り簡單な火力乾燥機械が發明せられ極く小仕掛のもので價額も安價である處から乾燥場の補助機として試験的に備付けるものも出來た乾燥中に降雨に遇ふと著しく品質を害するからである。

「サンパウロ」州の雨量の分布は珈琲の栽培に最も都合好く成熟期は雨期で收穫期は乾燥期に當るので珈琲實の乾燥も比較的容易に行はれる併しながら乾燥作業は生産品の價値を左右するものであるから耕地では最も重要な且つ經驗を要する仕事となつて居る乾燥は普通一週間から十日位で終る。

上述の乾燥法は「サンパウロ」州の大部分の珈琲耕地に於て普通に行はれる方法であるが大耕地になると更に一層完全な乾燥法を行つて優良品を作出して居る即ち赤色の熟果と青色の未熟果とを分離する機械 (Despolpador) を用ゆる然し其の作業が複雑であるのみならず大量生産の大耕地にあらざれば餘り利益とならない爲一般耕地では使用して居らぬ。

又小耕地になると第一乾燥場を所有しない、採取した果實は悉く之を一緒に混合して地上で乾燥するのであるから粗悪なる品質のものより生産することが出來ないのは當然である「ノロエステ」地帯に於ける邦人の殆ど全部は此の式の乾燥法を行つて居る。

乾燥の終つた珈琲は之を精製工場へ移し珈琲精製機に掛けて外皮と内皮とを剝取り茲に商品として價値ある生果珈琲が出來上る更に之を機械に掛けて其の形態に従て種類別とする即ち扁平種 (Chatto) 及圓狀種 (Moka) とに分ける扁平種は一果二粒より成り圓狀種は一果一粒、重に未成りである扁平種を更に大、中、小の三種に區別し之に屑物を加へて五種類或は夫れ以上に細別して各六十斤を麻袋に詰め輸出港へ向つて出荷する爲最寄の停車場へ搬出される搬出には馬背、馬車、牛車又は自動車等を用ゆるが之は其の距離の遠近と道路の良否とに依つて一様で無い。

耕地では自家専用の乾燥場及精製加工場を所有して居るが小耕地の多い地方になると精製加工を専門的に營業とする者が多數ある精製料金は精製珈琲「アローバ」に付八百「レウス」が普通である精製工場では少許の生産資金を前貸して小農耕者の生産品買取りの約定をするから營業として立派に立つて行く大抵の者は精米、製棉を兼業として居る。

珈琲樹は地味の瘠肥や作の豊凶に依つて其の生産量を異にするは勿論であり又樹齡に依つて收穫量に高低あるが普通の珈琲樹は植付後滿四年で結實し始め六年で滿稔に達する七、八年より十年生の樹齡のものが生産量の最も旺盛なものである其の後十五年生位迄は生産量に大なる低下は無いが夫れ以降は漸次收穫量を減じ従て施肥の必要を生ずるのが普通である併しながら樹齡は可なり長いものであつて若し手入れと施肥が適當に行はるれば二、三十年或は五十年の樹齡を保ち尙且つ旺盛なる生産を爲すものである成熟せる珈琲一本よりの果實收穫量は尠なくとも七五〇瓦乃至一、二〇〇瓦（精製珈琲）であつて稍々收穫量の異なるものありては一、六〇〇瓦に達し特に豊饒なる土地に於て適當なる樹齡のものにありては二、五〇〇瓦乃至三、〇〇〇瓦に上る即ち一千本に付平均五十「アローバ」乃至八十「アローバ」が普通で稍々良好なるものありては百「アローバ」更に最も優良なる結實を見るものありては百六十乃至二百「アローバ」を生産することも「サンパウロ」州では實際見聞する處である併しながら現今「サンパウロ」州の平均收穫量は一千本に付四十「アローバ」と見積るのが至當であらう「サンパウロ」州「リベロン・プレート」地帯の珈琲樹は一九〇〇年前後に植付けられたものが最も多く既に樹齡三十年に達し且つ一九一八年の大降霜に多大の被害を蒙つた爲現在の平均收穫量は三十七「アローバ」に降つて居る労働者が不足で手入れの不十分な耕地にありては二、三十「アローバ」より産出しない處もある。

ブラジルに於ける。

三、珈琲栽培地

「ブラジル」に於ける珈琲栽培地は極南部に位する「リオ・グランデ・ド・スール」州を除けば全國到處

其の栽培が可能であると謂はれるが最も理想的の地方は南緯十度より同二十四度迄の圈内で気温は攝氏の五度以上三十五度以下、平均十七度乃至二十四度又高度は海拔五百「メートル」より一千「メートル」位の高原地帯を適當とする高原地に産する珈琲は低地のものよりも遙に香氣に富み且つ美味である、雨量は一ヶ年を通じて約千七百「ミリ」あれば充分であるが雨期と乾燥期との區別が稍々劃然として居るのが都合宜しく又日光の終日直射する所は不適當である一日の中約四時間朝日又は夕日の照す所が宜しいとせられて居るから高原地帯の波狀に富んだ傾斜地を選ばねばならぬ珈琲に有害なるものは諸種の害虫がある外過剰なる降雨と旱魃とは禁物である風害も時によりては危険なるものであるが最も恐るべきものは降霜の害である。

斯の如く珈琲栽培地選定の條件を並べて見るとさしにも廣い「ブラジル」にも適地と云ふ所は極限せられる其の上地味の肥沃な交通の便利な所でなければ經濟的に引合はないのであるから優秀な土地は中々得難いのである現在「ブラジル」で珈琲栽培地としての主なる州は「サンパウロ」「ミナス・ヂェラエス」「リオ・ヂャネイロ」「エスピリト・サント」「バイーア」「ペルナンブーロ」及「バラナ」の七州である。

最近聯邦政府農務省の調査に依れば「ブラジル」に於ける珈琲樹は幼樹二億八千五百十萬六千八百本、既成樹十九億七千九十一萬三千七百七十五本合計二十二億五千七百二萬五千七百七十五本に達する今之を各州別に表示すれば次の通りである。

州名	幼樹	既成樹	計(本)
サンパウロ	1,317,000	1,027,000	2,344,000
ミナス・ヂェラエス	7,121,500	1,111,000	8,232,500

州名	樹数(本)	耕地数	面積(ヘクタール)
リオ・デ・ジャネーロ	11,550,015	113,845,780	1,872,277
エスピリト・サント	17,510,000	95,610,000	1,940,000
バイーア	17,100,000	83,810,000	71,077,500
パルナンプーコ	—	5,000,000	5,000,000
ペラ	13,000,000	15,000,000	13,000,000
セアラ	—	22,000,000	15,000,000
マラニャーウ	—	15,000,000	15,000,000
ゴヤス	5,000,000	4,000,000	11,000,000
サンタ・カタリーナ	80,000	3,000,000	3,510,000
アラゴアス	47,000	11,015,700	2,000,000
セルヂーバ	33,000	1,310,175	1,000,000
マツト・グロツ	100,000	110,000	1,000,000
合計	255,106,800	1,271,213,775	21,270,010,575

翻つて一九二〇年の聯邦國勢調査の統計を見るに「ブラジル」に於ける珈琲樹数は十七億八百四十一萬八千八百九十三本と計上されて居るから現在の樹數に比べると過去九ヶ年間に「ブラジル」の珈琲樹數は五億四千八百六十萬一千六百八十二本を増加したこととなる就中其の大部分は「サンパウロ」州であるが「ミナス・ヂェラエス」州も相當數の増加を見た今左に參考の爲一九二〇年の國勢調査に依る珈琲樹數を耕地數及栽培面積と共に各州別に表示すれば

州名	樹数(本)	耕地数	面積(ヘクタール)
サンパウロ	82,394,261	21,341,000	1,028,673
ミナス・ヂェラエス	48,803,620	41,393,000	650,706

州名	樹数(本)	耕地数	面積(ヘクタール)
リオ・デ・ジャネーロ	15,559,947	1,076,666	1,944,490
エスピリト・サント	11,458,312	1,637,500	1,527,776
バイーア	17,799,853	1,741,500	71,144
パルナンプーコ	29,316,825	5,347,000	45,104
ペラ	14,287,666	1,215,000	23,815
セアラ	9,565,376	1,357,000	1,366,500
マラニャーウ	7,365,772	1,552,000	1,052,300
ゴヤス	7,359,795	2,496,000	1,051,000
サンタ・カタリーナ	3,101,348	3,932,000	5,638
アラゴアス	1,659,967	1,369,000	2,372
セルヂーバ	1,699,577	1,646,000	1,948
マツト・グロツ	1,023,073	394,000	1,706
その他	1,613,000	1,826,000	2,588
合計	1,708,418,893	218,424,000	21,215,658

右の表を點檢するに「サンパウロ」州は「ブラジル」珈琲栽培の樹數に於ても亦其の面積に於ても其の時既に約半數を占めて居たが耕地の數に於ては「ミナス・ヂェラエス」州の方が遙に多い之は「サンパウロ」州の耕地には大規模のものが多く「ミナス・ヂェラエス」州には小農經營のものが分立して居たからである「サンパウロ」州は外國移民誘入に便利なる諸條件を具備し且つ集團的に勞働者を耕地へ收容する設備を施し大規模の耕地開發をなしたるが爲なりと見る事が出来る併しながら逐年「サンパウロ」州の大農主義は勞力の分散の爲に小農に傾きつゝある此の現象は「サンパウロ」州の新地帯に於て特に顯著である。「サンパウロ」及「ミナス・ヂェラエス」州に次ぐ珈琲栽培州は「リオ・デ・ジャネーロ」及「エスピリ

ト・サント州であるが兩州共過去九ケ年間には殆ど其の發達を見ず「リオ」州の如きは却つて樹數を減少して居る「リオ」州に於ける現在の栽培地は「イタペルナ」「バツア」「マグダレーナ」諸郡等同州最北部の山岳地帯である又「エスピリト・サント」州に於ては同州の南端即ち「リオ」州境に位する「イタペミリン」「ムクイ」「イタバボアーナ」諸郡であるが同州北部を貫流する「ドーセ」河左岸一帯の地方は將來の有望地として囑望せられて居る。

「バイーア」州は先年目覺しき發展を見んとせることありたるが一九〇六——七年度の珈琲暴落により其の栽培を中止して「カカオ」煙草等の栽培に變更した「ベルナンブーコ」州は緯度並地勢の關係上「リベリア」種を栽培して居る其の栽培地は海岸の低地より奥地に至る隨所に散在するが「リベリア」種は殆ど四時に亘りて開花する爲採取期も一定せず勞力不足なる「ブラジル」に於ては經濟的にあらず其の收穫量も一千本に付三十五「アローバ」を平均とすると云ふことであるから「アラビア」種に比較すると殆ど半數の收穫量である「バナナ」州は最近に至る迄交通の關係上其の開發が遅れて居たが同州北部一帯の地質は珈琲栽培の理想地味と稱せらるる「テラ・ロツシア」の大處女林である故に將來の大珈琲栽培地として一般に期待されて居る。

「ミナス・ヂエラエス」州の珈琲栽培地は之を二地帯に區分することが出来る即ち同州の南東部「リオ・ヂ・ジャネーロ」州境に位する「ジユイズ・ヂ・フオーラ」「カタグアーセス」「ムリアエ」「カランゴラ」「マヌアツスー」「ポンテ・ノーバ」及「カラチンガ」諸郡等「レオポルデーナ」鐵道沿線地帯と「サンパウロ」州境に位する「コンキスタ」「グアラネシア」「グアシュベール」「モンテ・サント」「ムザンビーニョ」

「サクラメント」及「サン・セバスチオン」諸郡等「モデアーナ」鐵道沿線地帯とである前者は主として森林地で氣温稍高く從て雨量多く濕潤なる地帯であるから珈琲栽培地としては餘り適當でない併しながら一九一八年七月の「サンパウロ」州大降霜の時同地帯は殆ど被害を蒙むらなかつたと云ふことであるから毎年冬期寒冷の氣候になると多少宛霜害に侵される「サンパウロ」州の珈琲栽培者から思へば結構な處の様に想像せられるであらうが濕潤地に産する珈琲は品質が優良でない又後者は全然「サンパウロ」州境に位し其生産品も「サンパウロ」州を通過して「サントス」港へ仕向けられるのであるから此地帯の珈琲栽培は「サンパウロ」州の延長と見ることが出来る。

四、「サンパウロ」州の珈琲栽培

「サンパウロ」州は南緯十九度四十五分より同二十五度十五分に跨り面積二十五萬平方呎、日本全土の面積より稍々大である珈琲の栽培地は奥地一帯の高原地方で海拔五百「メートル」乃至八百「メートル」全州到る處緩慢なる波狀形を呈し平均氣温十八度乃至二十二度、雨量の分布は

自 九月至十一月	三〇〇—四〇〇ミリメートル
自十二月至 二月	二五〇—六〇〇同
自 三月至 五月	二五〇—三〇〇同
自 六月至 八月	五〇—一五〇同

である珈琲の栽培地としては殆ど理想に近い處と謂はれる而して現在の主要栽培地は所謂「テラ・ロツシア」(「Terra Roxa」) (紫赤土壤)の地帯である「テラ・ロツシア」の地質は「ダイアベース」の崩壞が自然

に風化したものであつて表土が非常に厚く永きに亘りて地力を維持し地味肥沃なること他に其の比類がない「サンパウロ」州に於て最も重要な「テラ・ロツシア」地帯は「モヂアーナ」鐵道沿線に位する「リベロン・プレート」地方一帯である同地帯には「サンパウロ」州最大の珈琲耕地たる「ヅモント」耕地（樹數四、六三二、〇〇〇本）を始め「グアタバラ」耕地「サン・マルチーニョ」耕地等樹數百萬本以上を有する十數の耕地が所在して居る而して又「リベロン・プレート」地帯に産する珈琲は品質が優良である殊に同地帯に屬する「ミナス」州境「モコカ」(Moooca)地方に産する珈琲は味ひの美なること州内隨一と稱せられる從て「サントス」市場に於ては同地産のもの、價格は常に他を凌駕して居る「リベロン・プレート」に次ぐ地帯は「パウリスタ」鐵道沿線「カンピーナス」地帯であるが其の産額に至つては前者の約半數であつて到底比較ならぬ此地帯は今より數十年前未だ奥地帯の開發せられざりし當時にありては「サンパウロ」州に於ける珈琲生産の中心地方として殷賑を極め一時は首府の候補地と迄唱はれたものであるが其の地味次第に消耗を來たし生産漸次減退を呈しつゝありたる折柄「リベロン・プレート」地方の大「テラ・ロツシア」地帯の開發に依つて遂に其の中心は同地帯に向つて北進するに至つたのである此外「サンパウロ」州内の「テラ・ロツシア」地帯は「パウリスタ」鐵道の「ジャウー」「ジャボチカバル」及「ソロカバーナ」鐵道の「サン・マノエル」等が其の主なるもので何れも有名な珈琲栽培の地方的中心地である而して是等「テラ・ロツシア」地帯を現在では既に珈琲栽培の舊地帯(Zona Velha)と呼んで居る。

新地帯(Zona Nova)と稱するのは舊地帯より後に開發せられた地方で既述の通り「サンパウロ」州北西部「アラ・クアラ」「ドラデンセ」「ノロエステ」「パウリスタ」延長線及奥「ソロカバーナ」各鐵道沿線地

帯の總稱であつて其の地質は主として「テラ・マサッペ」(Terra Massapé)である。

最近「サンパウロ」州珈琲保護局の調査に係る「サンパウロ」州の珈琲耕地は三萬九千五百六十六箇所栽培面積七十三萬九千五百三十三「アルケール」之に栽培せらるゝ珈琲樹數は十一億八千九十八萬三千本と算定せられて居る今一九一八——九年度以降年々の珈琲樹增加數を示せば左表の通りである。

年 度	樹 數 (本)	増 減 本 數
一九一八—一九一九年	八二八、三五五、四二五	一、七一〇、六七〇
一九一九—二〇〇年	八二六、六四四、七五五	(一)
一九二〇—一九二一年	八四三、五九二、六九五	(十)
一九二一—一九二二年	八六一、八九七、四〇〇	(十)
一九二二—一九二三年	八九九、二三九、一〇〇	(十)
一九二三—一九二四年	九四九、一四九、四五一	(十)
一九二四—一九二五年	九五二、二八八、四五五	(十)
一九二五—一九二六年	九八一、二八八、四五〇	(十)
一九二六—一九二七年	九九六、一四二、五九〇	(十)
一九二七—一九二八年	一、一四〇、八一五、〇〇〇	(十)
一九二八—一九二九年	一、一八〇、九八三、〇〇〇	(十)

右の表に依れば一九一八——九年度より一九二八——九年度に至る十年間に「サンパウロ」州の珈琲樹數は三億五千二百六十二萬八千四百二十五本を増加して居る斯の如き急激なる増植を見たるは偶然ではないのである即ち歐洲大戰の終熄後珈琲の世界的需要の恢復と市價の暴騰に依りて珈琲の栽培を有利ならしめたるは既述の通りであるが一方亦往年珈琲の生産過剰に苦き經驗を有する「サンパウロ」州は一

九二七——八年度の大收穫を處分する上に再び珈琲の栽培禁止令を發布すべしとの風説傳はりたる爲植付を急いだ結果と見られる單に一九二七——八年度のみの新植が一億四千四百餘萬本に達して居るのを見て其の邊の事情が窺ひ知られる最近の「サンパウロ」州珈琲樹新植は一ヶ年約三千萬本を平均とするのが至當であつて之に對し老廢樹は二千八百萬本に達すると云ふから生産上から見た樹數の増加は一ヶ年二百萬本となる計算である。

「サンパウロ」州の珈琲樹數が最近非常なる勢を以て増加せるに拘らず其の生産高は之と比例して居らぬ左記は「サンパウロ」州農務部の發表する一九二〇——一年度以降の珈琲生産表である。

年次	數量(袋)
一九二〇—一年	一〇、二四六、二〇〇
一九二一—二年	八、一九七、七〇〇
一九二二—三年	七、〇四六、九〇〇
一九二三—四年	一〇、三七四、三五五
一九二四—五年	九、一九二、六〇〇
一九二五—六年	一〇、〇八七、一七五
一九二六—七年	九、八七六、五二五
一九二七—八年	一九、三八一、〇一〇
一九二八—九年	七、三九二、五二七
一九二九—三〇年(豫想)	一三、七八七、九八七

「サンパウロ」州の鐵道網は殆ど珈琲の栽植に依つて發達したものと云ふことが出来る珈琲地帯に於ける鐵道は縦横に通じて居る從て珈琲樹數を各鐵道線に依つて區別すれば一層其の分布状態が判明するか

ら左に之を表示する。

鐵道線名	樹數(本)
モジアーナ	二六九、九四五、〇〇〇
パウリスタ	二五一、〇〇〇、〇〇〇
ソロカパーナ	一六八、六八〇、〇〇〇
アラ・グアラ	一四一、二〇〇、〇〇〇
ノロエステ	一一〇、〇〇〇、〇〇〇
ドラデンセ	八〇、二三〇、〇〇〇
セントラル	三七、六六〇、〇〇〇
サンパウロ	二八、〇〇〇、〇〇〇
サンパウロ・ゴヤス	二六、四〇〇、〇〇〇
モンテ・アルト	一九、五〇〇、〇〇〇
イタチベンセ	八、二〇〇、〇〇〇
合計	一、一四〇、八一五、〇〇〇

之を一九二〇年度の國勢調査當時に於ける「サンパウロ」州各鐵道線別に依る樹數と對照すれば其の消長の跡が明瞭となるから左に之を表示する。

鐵道線名	樹數(本)
パウリスタ	四〇〇、五七六、〇〇〇
モジアーナ	二三八、一八七、〇〇〇
ソロカパーナ	一〇六、四四五、〇〇〇
セントラル及サンパウロ	五九、〇三三、〇〇〇

其 他 計 一九、七〇一、〇〇〇
 合 計 八二三、九四二、〇〇〇

即ち「パウリスタ」鐵道は四億本を以て第一位に在り次で「モヂアーナ」鐵道の二億三千八百萬本である。「パウリスタ」鐵道沿線とは即ち「カンピーナス」地帯を指すもので「カンピーナス」「リメーラ」及「アラ、ス」等の沿線諸郡は今や既に珈琲園は荒廢に歸し其の跡は果樹園又は牧場となつて居る。「カンピーナス」地帯の珈琲樹は過去七ヶ年間に一億五千萬本を減少したのである。「モヂアーナ」鐵道即ち「リベロン・プレート」地帯の樹數は此の間に三千餘萬本を増加し現在では矢張り「サンパウロ」州珈琲栽培の中心地帯たるを失はぬ。「ソロカバーナ」鐵道沿線は奥「ソロカバーナ」の發展に依つて六千八百萬本を増植した又「アラ・クアラ」「ノロエステ」及「ドラデンセ」諸線は新地帯に屬するもので其の大部分は近年の發達である而して最近三ヶ年間の各鐵道線別珈琲生産高を示せば左表の通りである。(單位袋)

鐵道線名	一九二七—八八年	一九二八—九九年	一九二九—三〇年
モヂアーナ	四、三五七、四〇四	一、七四七、九一二	二、六四八、六二五
パウリスタ	四、七七一、九四八	一、四三三、〇〇〇	二、九五六、七二五
ソロカバーナ	三、四四三、三四九	一、一八五、五五五	二、四三四、五二五
アラ、クアラ	二、三三三、〇一三	七五〇、六五二	一、七五〇、〇〇〇
ノロエステ	一、七四六、六四六	六九一、四四五	一、七六五、七五〇
ドラデンセ	一、一〇一、一三四	五二七、〇三八	一、〇六二、七二二
セントラル	二四〇、二五三	一七八、一四五	二四〇、五二五
サンパウロ	三〇九、四七九	一四九、七八〇	二七一、七五〇
サンパウロ、ゴヤス	七〇九、二五二	二四一、二五〇	四〇〇、六二五

モンテアルト 一八四、六六三 九七、五〇〇 一八五、〇〇〇
 イマチメンセ 九一、二四二 六八、二五〇 七一、七五〇
 其 他 五二、六二七 三三二、〇〇〇
 合 計 一九、三八一、〇一〇 七、三九二、五二七 一三、七八七、九八七 (豫想)

「サンパウロ」州新舊地帯の興廢を見るに過去九ヶ年間に於て舊地帯の珈琲生産高は全額の六割に減退し之に對する新地帯は四割に擡頭して來た此の六割の大部分を占めるものは「リベロン・プレート」を始め「テラ・ロツシア」の地帯であるが其の樹齡より推定するときは今後經濟的に生産し得らるゝ期間は餘り長くあるまいと想像せられる新地帯の開發も今や飽和點に達し最早や急進的に發展の見込もなく此の先「ブラジル」が世界の市場へ向つて優良品を以て壓倒的數量を送出して珈琲の市價を左右せんと欲するならば此の舊地帯の存亡こそ珈琲政策遂行の岐路に立つものこと云はねばならぬ近來政府當局者並識者間に肥料問題が論議せられ或は勞働者供給問題が討究せられつゝあるのは一に此の舊地帯の存續を一日も長からしめんとする必要より生ずるもので「サンパウロ」州が外國移民の招致に對し諸般の便宜を興へて其の渡來を歓迎する所以も亦茲に存するのである。

珈琲耕地の規模の大なるものは前述の通り「リベロン・プレート」附近に最も多く今は既に故人となつた彼の「フランシスコ、シユミット」の如きは獨逸より渡來せし時は貧しき「コロノ」に過ぎなかつたものであるが珈琲好況時代の風雲に乗じて晩年には珈琲王と迄稱せらるゝに至つた同人の全盛期には年々の利益を以て買占めた耕地が實に八十餘にも達したと云ふ今でも「サンパウロ」州の耕地で百萬本以上の樹數を有する耕地となると極めて少數で僅に十數ヶ所に過ぎぬ而して其多くのものは會社組織である。

樹數三四十萬本以上の耕地は約千五百程ある是等の耕主になると耕地一切の管理を支配人に委せて自分採取期に見廻る位のもので常に「サンパウロ」又は「リオ・デ・ジャネーロ」市に邸宅を構へて豪奢な生活營んで居る又中耕地になると其の耕主は耕地附近の都市又は自ら耕地内に居住して労働者を指揮監督しなければならぬ是等の階級に屬する者は四五千程もあると云ふ而して又小耕地になると樹數二三萬本以下のもので耕主は自ら労働しつゝ傭人を使役するものが多い此の程度の小耕主は最近著しく増加し三萬以上もあると云ふ。

邦人の所有する珈琲耕地は海外興業會社の「アニエーマス」、東山農事會社の「モンテ・デステ」及日伯拓植會社の「バラ、マンサ」の三耕地で何れも樹數二三十萬程度のものである又小農耕者の數は約二千五百、所有地五萬「アルケール」其の大部分のものは數十家族乃至數百家族宛集團的に植民地を形成して居るが所有地十「アルケール」に一萬本内外の珈琲を植付けて居るものが最も多數である。

珈琲耕地(Fazenda)に就働する契約労働者(Colono)は珈琲樹一千本に付平均一人(老幼婦女子を取混ぜ)の勞力を必要とするから「サンパウロ」州の珈琲耕地に就働する「コロノ」數は百萬人を超えて居る之を一家族五人構成とすれば二十萬家族の「コロノ」が常に耕地に居住して労働に従事して居る「コロノ」の労働賃銀は珈琲樹手入一千本に付四百乃至五百「ミルレース」珈琲果實採取賃一「アルケール」に付二「ミル」五百「レース」位が普通である。

「コロノ」の大多數は南歐移民殊に伊、西、葡人で又「ブラジル」人も相當數に達して居る、邦人の「コロノ」は現在約二萬五千即ち千五百家族許り二百有餘の耕地に就働し頗る評判が宜しい。

此外耕地内の日給労働者及珈琲樹仕立請負者等を合すれば珈琲栽培に従事する労働者は約百五十萬人にも達する「サンパウロ」州の人口は六百萬人で其中首府に居住する百萬人を除く五百萬人は地方居住者である其中百五十萬人は耕地労働者で其の他の者も直接又は間接に珈琲に關係あるものが多く珈琲の景況如何は直に當州人一般に甚大なる影響を及ぼすのであるから「サンパウロ」州の政治、經濟、移民等は殆ど總て珈琲を中心として居る「サンパウロ」州は之を珈琲州と呼んでも敢て過言ではあるまい。

五、生産費及諸經費

此處に珈琲の生産費を計上する順序として先づ以て珈琲栽培に要する費用と其の經營費とを見積る必要がある「サンパウロ」州では處女林を開墾して珈琲實を播付け既成の耕地となる迄に仕立上げるには普通四年又は六年の請負仕事となつて居る六年の請負契約は最近行はれ始めた方法であつて一般には四年契約が廣く行はれて居る今此方法を以て一「ヘクタール」に付四「メートル」と三「メートル」三十の間隔を以て七百五十本の珈琲樹を植付ける事とし其の開墾より四年後の既成耕地となる迄の費用を計上すれば左の通りである

森林伐採費	1110,000
區劃並燒却費	110,000
植付に要する諸費用	115,000
種子代其他	25,000
雜費	25,000
小計	525,000

四ヶ年間珈琲手入費

(一本に付八〇〇「レース」の割)

六〇〇、〇〇〇

合 計 一、二二五、〇〇〇

即ち一本當り「ミル」五百「レース」の見積りとなる其處で之を基準として「アルケール」(二百五十町歩)の森林を開墾して之に二十萬本の珈琲樹を植付け四ヶ年を経て既成耕地となる迄には土地設備及勞賃等總てに對して投すべき資本金概算は約六百「コント」即ち一本當り三「ミルレース」と見ることが出来る目下の爲替相場一圓を四「ミルレース」とすれば四ヶ年を経て處女林二百五十町歩を完全な珈琲耕地とする迄に要する資金額は約十五萬圓と云ふ計算になる即ち左表の如くである

二十萬本植付費	三〇〇、〇〇〇
(一本に付「ミル」五百「レース」)	「コント」
土地購入費	五〇、〇〇〇、〇〇〇
(「アルケール」に付五百「ミルレース」)	「レース」
労働者家屋三十六棟	一〇八、〇〇〇、〇〇〇
支配人住宅及家畜用柵	四二、〇〇〇、〇〇〇
乾燥場設備費	三〇、〇〇〇、〇〇〇
精製加工場	四〇、〇〇〇、〇〇〇
四年間諸雜費	三〇、〇〇〇、〇〇〇
合 計	六〇〇、〇〇〇、〇〇〇

珈琲耕地の評價は普通珈琲樹の本數を計算の標準として居る右の計算は珈琲耕地を仕上げるに要する實費即ち原價であつて賣買となると此の外に金利並利益をも見積らなければならぬから現今の相場では

珈琲樹一本當り五「ミルレース」内外を稱へて居る而して珈琲耕地に對する租税は珈琲保護の關係上甚だ低廉なるものである即ち珈琲既成樹一千本に對し二「ミルレース」(郡に依り多少の相違あり)の郡税を課せられる許りで其の他の税金は免除せられる。

右の耕地が出来上つてから之を經營して行く經費と生産品とが如何なる割合となるか左に六十斤入珈琲一袋の經常生産費と見るべきものを計上する

除草手入費	三二、〇〇〇
採取費	八、〇〇〇
乾燥場迄の運賃	二、〇〇〇
乾燥費	二、〇〇〇
精製加工費	三、〇〇〇
袋代費	二、〇〇〇
事務所費	六、〇〇〇
雜費	五、〇〇〇
合 計	六〇、〇〇〇

即ち産地に於ける珈琲一袋の生産原價は六十「ミルレース」を要するのである但し此の標準は珈琲の收穫量を五十「アローバ」と見た「サンパウロ」州に於ける普通の耕地のものであつて新地帯に於ける收穫量は之より遙に多いのであるから従て生産費は六十「ミルレース」以下であることは明である。

右の計算は珈琲經常生産原價を示したものであるが更に全投資額に對する原價となると最初からの金利其の他一切の經費を見積らなければならぬから餘程高價なものとなるのは當然のことである「ノロム

ステ」地帯に於ける邦人の生産する原價は平均一袋に付百「ミルレース」を標準とすべきであるが一九二九年七月「サンパウロ」州統領が州議會の開院式へ送つた教書中に現今の「サントス」珈琲取引所に於ける標準珈琲の建相場(十疋に付三十三「ミル」五百「レース」)は價格釣上げに依る相場にあらずして實際に生産原價が昂騰せる結果であることを示す爲に「ムニス」領事の調査に係る「サンパウロ」州珈琲原價表を引用して説明を與へて居る同領事の調査せる計算の基礎となる數字を承知せぬから如何なる方法で斯る數字が出たか不明であるが金利の相當高い國である上に最近珈琲の豐作が續いた爲に輸出港への輸送制限令に依つて長期間産地の調節倉庫へ抑留せられることになつたので全投資額に對する金利や輸出迄に要する一切の費用を見積ると或は左記の様な數字を現はすものかと思はれる、一説として参考の爲茲に記載する。

- 一、舊地帯珈琲一千本の收穫高平均三十七「アローバ」、十疋に對する生産費金利其他一切を加へて
二十八「ミル」五百十「レース」
即ち一袋に付 一七一、〇六〇「レース」
- 一、中古地帯平均五十五「アローバ」、同上
二十三「ミル」八百六十「レース」
即ち一袋に付 一四三、一六〇
- 一、新地帯平均七十「アローバ」、同上
二十一「ミル」七百七十「レース」
即ち一袋に付 一三〇、六二〇

生産原價の外生産品が輸出せられる迄に負擔せざるべからざる諸掛りは各州に依りて相違があるから之を各州に區別して左に掲載する

- 一、サンパウロ州
 - 珈琲一袋生産費 六〇、〇〇〇「レース」
 - 輸出税(聯邦税) 一四、〇四〇
 - 一疋二「ミル」六〇〇「レース」標準公定價格として九分
 - 珈琲保護税 一、六六五
 - 「ツブレ、タツシヤ」を稱する「タウバテ」協約以來實費の佛貨(金貨)五法
 - 通行税 四、六〇〇
 - 州令第二〇〇四號第三條に依り制定「サンパウロ」州通過の珈琲一袋に付金貨二「ミルレース」課税
本税は外債の擔保に供せらる
 - 宣傳税(一袋に付) 二〇〇
 - 運賃其他 八、〇〇〇
 - 計 八八、五〇五
- 二、ミナス、ゲアラエス州
 - 珈琲一袋生産費 六〇、〇〇〇
 - 輸出税(聯邦税) 九、一一四
 - 一疋二「ミル」一七〇「レース」標準の公定價格として七分
 - 珈琲保護税 一、五〇〇
 - 金貨税三法
 - 同上附加税(二分) 〇三〇
 - 宣傳税(一袋に付) 二〇〇
 - 通行税(金貨)二「ミルレース」 四、六〇〇

但しサンパウロ州通過輸出のもの

○運賃 其他 八、〇〇〇

計 八三、四四四

三、リオ・デ・ジャネイロ州

○珈琲一袋生産費 六〇、〇〇〇

○輸出税(聯邦税) 一〇、四一六

一担二「ミル」七〇「レース」標準の公定價格として八分

○宣傳税(一袋に付) 二〇〇

○珈琲保護税 四、六〇〇

金貨一「ミルレース」

○特別税 一、三〇二

但し公定價格の一分

○附加税 四六〇

但し保護税の一割

○運賃 其他 八、〇〇〇

計 八四、九七八

四、エスピリト・サント州

○珈琲一袋生産費 六〇、〇〇〇

○輸出税(聯邦税) 一五、六二四

一担二「ミル」七〇「レース」標準の公定價格として一割二分

○珈琲保護税 二、三〇〇

金貨五〇「レース」

○慈善病院寄附 一〇〇

○宣傳税(一袋に付) 二〇〇

○運賃 其他 八、〇〇〇

計 八六、二二四

五、パラナ州

○珈琲一袋生産費 六〇、〇〇〇

○輸出税(聯邦税) 七、五〇〇

一担二「ミル」五〇〇「レース」標準の公定價格として五分

○保護税 四、六〇〇

金貨一「ミルレース」

○通行税(金貨一「ミルレース」) 四、六〇〇

但しサンパウロ州通過輸出のもの

○宣傳税 二〇〇

○運賃 其他 八、六五〇

計 八五、五五〇

此の外輸出港に於ける珈琲賣買上に關する諸種の手數料例へば「コンミツサリオ」手數料として賣買價額の三分並仲立人手數料として一袋に付現物のときは二百「レース」先物のときは百五十「レース」又取引所を経由するときは賣買税として一袋に付五百「レース」(但し聯邦税三百「レース」)「サンパウロ」州二百「レース」法定税二十「レース」其の他の輸出用の法定風袋代三「ミル」八百「レース」雜費一袋に付平均三百「レース」等も輸出する迄に要する費用であつて輸出市場に於ける此の種の諸掛りは可なり負擔多きものである。

604
38

六、珈琲の在荷と價格

産地に於て生産せられたる珈琲は順次に之を輸出港へ搬出して珈琲商人「コンミッサリオ」の仲介を経て輸出商社へ賣込まれ海外消費國へ輸出せらるゝものであるが従て珈琲の輸送制限實施以前は珈琲の收穫期に入ると各輸出港市場には一時に巨量の産品が殺倒して輸出港に於ける在荷高を激増し市價の低落を誘起したものであるが珈琲保護法の制定を見、輸送制限令の實施以來生産者は各輸出港の制限在荷高以上に無制限に出荷することが出来なくなつた而して珈琲保護を管掌する珈琲保護局は右の産地に堆積する在荷を生産地方の各要所に設置する調節倉庫に收容貯藏し輸出港入荷の割合に準して之を各鐵道驛より搬出して居る斯くて各輸出港に於ける在荷高を適當に保ち珈琲市價をして生産費以下に低落せしめざる様人爲的に政府が調節して居る。

「ブラジル」に於ける珈琲の主なる輸出港は「サントス」「リオ・デ・ジャネーロ」「ヴィクトリア」の三港であつて次で「バイーア」「レシーフエ」及「バラナグア」の諸港である左表は一九二八年十二月末日現在に於ける「ブラジル」の各輸出港在荷高である。

港名	在荷數量(袋)
サントス	九六四、七二四
リオ・デ・ジャネーロ	三三八、〇三三
ヴィクトリア	八二、八七七
バラナグア	三七、〇〇〇
バイーア	三五、〇〇〇

レシーフエ 一一、八四一
 合 一、四七〇、四七五

即ち一九二八年末現在に於て産地の諸所調節倉庫に收容貯藏せる珈琲を除き「ブラジル」が自由に海外へ輸出し得る在荷は總計百四十七萬四千七十五袋であつたのである。

右の「ブラジル」在荷に對し同日の歐米市場に於ける在荷高は左記の通りであつた

歐洲諸市場在荷高	二、三五八、〇〇〇袋
北米同	一、三三三、〇〇〇同
ブラジル同	一、四七〇、四七五同
世界總在荷高	五、一六一、四七五同

右表に示す通り一九二八年末現在に於て世界の珈琲市場が抱荷して居た消費用珈琲の總數は五百六十六萬一千四百七十五袋である而して「ブラジル」内諸調節倉庫には同日總計一千二百九十六萬五千八百四十三袋を貯藏して居つた即ち

世界總在荷高	五、一六一、四七五袋
調節倉庫貯藏高	二、九六五、八四三同
合	一八、一二七、三一八同

の實物が世界に存在して居つたことになる。

右の實物珈琲の外生産者が貯藏する數量を加へたものが實際の在荷數となるのである而して同年度に於ける世界の消費量は二千三百五十三萬六千袋であつた。

最近「ブラジル」の珈琲生産は順調なる發展をなし年々生産増加の傾向を示して居る併しながら珈琲作には略々隔年毎に豊凶の來たるもので豊年の翌年は收穫が減ずるのが普通である去る一九二二—二四年度

は豊作であつた爲一九二四—五年及一九二五—六年度の兩作は收穫を減じた尤も減收が二年續いたのは樹が疲勞した上に旱魃の影響を受けた爲である又一九二七—八年度は珈琲史上空前の「レコード」產出たる二千八百萬袋と云ふ大豊作を現出して居るから其の翌年の一九二八—九年度作は生産を減じたのである。

「ブラジル」珈琲の價格が世界に於ける珈琲の需要供給の原則に支配せられるものであることは言ふ迄も無いが世界の消費は年々累進的に漸増するは定常的數字であつて現今既に二千四百萬袋と算せられて居り「ブラジル」に於ける在荷高は政府の保護制度に依つて機宜の調節を爲して供給を支配して居るから價格に影響を與ふる因子となるべきものは現今の處では生産費の高下、一般物價の動搖、「ブラジル」の對外爲替相場の変動等が主なるものである即ち「ブラジル」に保護法の完成せられなかつた舊時代に於けるが如き法外の價格浮動は無くなり珈琲産業に氣強い安定を與へて居る亦右の浮動因子も現「ワシントン、ルイス」大統領が就任早々敢然として幣貨安定策を行ひて以來爲替相場、一般物價並生産費等は或點迄不同の數字となり之が珈琲價格に根強き礎を構成する要因となつて居る今後珈琲の價格は「ブラジル」の生産、珈琲保護法、財界に於ける大異變、世界の消費等に急激なる變化無き限り此處數年間は安定なる状態を保合ふものと一般に觀測せられ居る。

「ブラジル」珈琲の市價は「サントス」珈琲取引所及「リオ」取引所で建つ公定相場を基準とするもので現物に對する標準相場は之を珈琲保護局が指示して居る而して市場の賣買は其の標準相場を基本として前後に少許の開きを現はして居るのみであつて殆ど完全に調節せられて居る形である。

毎日の新聞紙上に發表せられる「サントス」市場の珈琲標準相場とは「サントス」型第四級品十斤に對する相場を指すものであつて一九二八年五月以降「サントス」取引所に於ける現物の標準相場は三十三「ミル」五百「レース」即ち一袋に付二百一「ミルレース」と云ふ不變の數字を保つて居る而して同市場に於ける一九一八年度以降標準相場並爲替相場の最高及最低を示せば左表の通りである。

年次	最高「ミルレース」	最低「ミルレース」	最高	最低
一九一八年	六、一〇〇	四、八〇〇	一三	一七〇
一九一九年	一九、五〇〇	六、九〇〇	一四	一七〇
一九二〇年	二〇、〇〇〇	一二、八〇〇	一八	一七〇
一九二一年	一四、〇〇〇	八、〇〇〇	一四	一七〇
一九二二年	一九、五〇〇	一四、五〇〇	八	一七〇
一九二三年	二三、八〇〇	一六、八〇〇	七	一七〇
一九二四年	二九、〇〇〇	一七、八〇〇	六	一七〇
一九二五年	四三、五〇〇	二九、五〇〇	六	一七〇
一九二六年	三六、〇〇〇	二四、七〇〇	七	一七〇
一九二七年	二八、七〇〇	二二、〇〇〇	七	一七〇
一九二八年	三三、五〇〇	三二、一八〇	五	一七〇

伯貨「ミルレース」に對する英貨爲替相場(片)

而して又産地に於ける最近の珈琲相場を見るに一九二八—九年度の「サンパウロ」州珈琲作柄は七百萬袋と云ふ減收であつた爲小農耕者の多い地方では非常なる好況を呈し皮付珈琲一袋(精製珈琲約二十二斤半)六十「ミルレース」内外で賣買せられて居たが一九二九—三〇年度の收穫は約千四百萬袋と豫想せられ價格は前年に比し半額以下即ち皮付一袋に付二十六、七「ミルレース」然も賣手の足許に付け込んで買漙つて居ると云ふ状態である若し一九二七—八年度の大豊作を見ざりしならば千四百萬袋の收穫は左

程憂ふべき數字では無いが調節制度の實施以來前年度の珈琲が悉く處分済となる迄調節倉庫に抑留（一九二九—三〇年度の收穫の珈琲は十ヶ月乃至二十四ヶ月間調節倉庫に抑留）せらるゝのみならず更に同年度の收穫珈琲より鐵道出荷に對しても嚴密なる制限を受けることゝなつた爲商品が容易に現金に換らない「サンパウロ」州銀行並「コンミッサリオ」は鐵道貨物引換證擔保に貸出しを行つて居るが當今金融市場逼迫の影響を受けて其の貸出し潤澤ならざる爲小農耕者に迄行渡らぬ資金準備の手薄い者は金策に東奔西走して居る生産に要する資金に行詰まれば如何なる不利益な値段にても生産品を手離すより外融通の途が付かぬ「ノロエスタ」地帯に於ける邦人小農耕者の殆ど全部は不景氣に遭遇すると産地商人の爲に利益の大部分を奪はれて居る。

七、價格調節と輸送制限

「ブラジル」には古くより珈琲價格の釣上げ（Valorização do Café）を以てある之は日本に於ける米價調節に似た意味のものであるが、最近では「價格の釣上げ」と謂はずに「珈琲の保護又は擁護」（Defesa do Café）と稱する様になつた珈琲保護の目的とする處は「ブラジル」經濟の根幹を形成する珈琲の價格が其の生産費以下に低落するを防止するに存し貨幣安定策と共に「ブラジル」の二大財政經濟策の一つとなつて居る而して世界の七割を生産する「ブラジル」珈琲の「シユブレマシー」を利用して珈琲の需要供給を「コントロール」し珈琲の市價を世界的に掌握することを期するものである。

「サンパウロ」州珈琲の生産が激増して世界的に生産過剰を來たした一九〇六年以降「ブラジル」政府は珈琲價格維持の爲に度々其の價格調節策を大規模に行つて居る今其の大體の經過を左に概説する。

北米に於ける珈琲の需要が増加して來た一九〇〇年頃「リオ」産珈琲が紐育市場に於て一封度に付十九仙と云ふ高値を示したるに刺戟せられた「サンパウロ」州は未開の沃野到る處に横はり歐洲移民は幾何でも耕地に向つて來るし生産者は勞せずして法外な利得を占めたるが爲儲かるに連れて不用意の間に事業を益々擴張し住民は悉く他を放抛して珈琲栽培に走つたのである其の結果は遂に生産過剰を招來し一八九七年頃迄十九仙臺を辿つたものが七仙臺に崩落し更に一九〇三年には五仙迄漸落した爲生産者の得る處は生産費を償ふにも足らなくなつた處へ一九〇六—七年度の大收穫を控へた爲同年には「タウバテ」市に珈琲産州代表者會議を開き「サンパウロ」州政府は應急策として生産者が今後生産を維持して行ける程度迄珈琲の市價を釣上げる爲在荷珈琲を買上げる必要に迫られ三千萬弗の資金を調達して珈琲を買上げた其の後一九〇八年には千五百萬磅（期間十年）の借款を起し英、米、佛、獨、白の各銀行が一つの「シンデケート」を組織して之を引受け「サンパウロ」州政府は此の外債に依る資金を以て買上げた珈琲を擔保として前記五箇國の開港場（倫敦、紐育、ハーブル、漢堡、安土府）に貯藏して市價を崩さざる程度に之を賣却することゝし一ケ年の輸出高を一九〇七—八年度には一千萬袋、一九〇九—一〇年度には一千五十萬袋に制限し且つ珈琲一袋に付保護税として五法の金貨税を徵收することゝした。

其の後一九一八年に至り歐洲大戰の餘波を受けて珈琲が安値を持續した爲生産者は漸次悲境に沈み政府は之が救済の目的を以て三百萬袋を買上げた丁度其の年休戰條約は締結せられ「サンパウロ」耕地は稀有の大降霜の爲其の生産は激減し珈琲市價の奔騰を來たし政府は爲に思はぬ巨利を博するに至つた。

從來主として「サンパウロ」州のみが力を入れた珈琲保護は一九二二年に至つて聯邦政府の管掌に移された即ち同年六月十九日附法律第四五八號を以て資金三十萬「コント」に依る「珈琲其の他の農畜産物永久保護法」が聯邦議會を通過し同時に九百萬磅の外債が成立したので此の資金を以て政府は四百五十萬袋の珈琲を買上げ「ブラジル」内地と倫敦とに庫入れ保管し市價を下落せしめざる様毎月四十五萬三千五百袋宛賣却することとし且つ輸出税を賦課したが政府は此の結果不換紙幣を濫發して爲替相場の暴落を惹起し諸物價の騰貴を來たしたる爲漸次不評判となり「エビタシオ」内閣より「ベルナルデス」内閣に代るや財政緊縮の方針を樹て、政費の節減、不換紙幣の回収焼却を行ひ遂に聯邦政府は珈琲保護政策より手を引くに至つた。

併しながら珈琲を以て立つ「サンパウロ」州は飽迄珈琲を保護する必要ある爲一九二四年「サンパウロ」州統領「カルロス・カンボ」氏が州統領に就任し財政部長官に「マリオ・タバールス」氏の入閣を見るや州統領は間もなく自ら「リオ」に出府して聯邦當局と交渉を重ねたる結果聯邦政府と分離して「サンパウロ」州獨自で保護政策を行ふこととなり先づ「ミナス・ヂエラエス」州政府と協定し次で「リオ」州政府の同意を得同年十二月十九日附法律第二〇〇四號を發布して「サンパウロ」州「常設珈琲保護局」(Instituto da Defesa Permanente de Café)を稱する財務部直轄の一機關を設立し其の保護策を實地に適用して見ると生産者の利益となるに反して輸出業者及珈琲商人に不便の點多く甚しく物議を醸した其の後一九二五年十二月二十日附法律第二一一〇號及同月三十日附法律第二一二二號續いて一九二六年十月二十六日附法律第二二四四號を以て其の制度に改廢を加へた「サンパウロ」珈琲保護局は現在實施せられて

居るもので内外の評判宜しきものである。

右の保護局は「サンパウロ」州財務長官を總裁に又農商工務長官を副總裁とし珈琲生産業者より二人「サントス」商業會議所指名の珈琲商人一人を評議員とし評議制度に依つて之を管理せしめて居る而して「サンパウロ」州領域内を通過する珈琲一袋に付金貨「ミルレース」迄の通行税を徵收して保護政策遂行上所要の基金を得る爲の借款の擔保と爲し之を擔保に一千萬磅の外債を起した。

其の後爾餘の珈琲産州と協約して同じく右の通行税を諸州より徵する外輸出港への輸送制限を行ひ輸出珈琲一袋に付二百「レース」の宣傳税を徵收せしめて之を保護局の珈琲宣傳費用に充當することとし生産地に於ける調節倉庫に收容せる珈琲を擔保として生産者並商人に珈琲貸付を爲す仕組となつて居る。

初め保護局内に金融部を設けて前記の珈琲貸付を取扱つて居たが別に「サンパウロ」州銀行(Banco do Estado Sao Paulo)なる資本金五萬「コント」の金融機關を設立し「サンパウロ」州政府並保護局が其の大株主となつて一般よりの珈琲貸付業務を殆ど獨占的に取扱はしめて居る凡そ珈琲保護政策の主眼とする處は世界の珈琲需給關係を人爲的に調節するに在り即ち「ブラジル」國內生産地と輸出港との間に珈琲の輸送制限を厳行し以て「ブラジル」國內自由在荷を調節するに存する從て輸送制限を行ふ爲に調節倉庫内に或期間抑留する珈琲に對しては豊富なる貸出しを行ひ生産者並珈琲商人が保護制度の爲に金融難に陥らざる様努め茲に初めて輸送制限の完全なる實施を行ひ得るものである斯の調節珈琲に對する貸出しに其の量の巨大なる爲實に巨額の資金を引當つる必要が生じ保護局と「サンパウロ」州銀行の該貸付資金

の多寡は直に保護政策の基礎に影響するものである。

「サンパウロ」州銀行は其の他の銀行と協力して調節倉庫に收容せられたる珈琲の鐵道貨物引換證擔保を以て擔保價格一袋に付六十「ミルレース」、利子年九歩、六ヶ月期限（但し此の期限は更に延長するこゝとが出来る）並生産珈琲を擔保に經常生産資金として珈琲樹一本當り二「ミルレース」、利子年一割、一ヶ年期限、別に又珈琲樹一本當り二「ミルレース」年利一割、五ヶ年乃至十五ヶ年賦の不動産抵當貸付に應じて居る。

保護局が輸送制限の爲に調節倉庫に收容する珈琲に對しては保管料荷役料其の他を徴收せず而して「サンパウロ」州内の調節倉庫は左記の箇所を設置せられて居る

サンパウロ市ラバ

イチラビーナ

サンカルロス

リンコン

カンビーナス

カーザ、ブランカ

リベロン、プレート

アラ、クアラ

カンボ、リンボ

クルゼーロ

サントス

ペデルネーラス（建造中）

即ち總計十二箇所に所在し何れも珈琲五十萬袋乃至七十五萬袋を貯藏し得る容量の倉庫であるから總體にて七百萬袋以上の收容能力を有して居る其の他各鐵道驛の倉庫及貨車内にも收容し得るもの故此の容量を約三百萬袋と見積り「サンパウロ」州内の調節倉庫の貯藏能力は約一千萬袋と概算し得られる。

（註）調節倉庫收容力以上の珈琲は「サンパウロ」市私設倉庫に貯藏す。

最近調節倉庫内貯藏の期間長きに亘り且つ其の設備不完全にして濕氣多き爲出庫の珈琲にて目減り又は品質悪化し甚しきは腐敗せるものなごあるに依り一部の論者は國家の爲大損失なりとして内奥地の倉庫を全部「サンパウロ」市又は「サントス」港に移さんことを説く者がある。

珈琲保護局設立後一九二五—六年度及一九二六—七年度の「サンパウロ」州生産高は早魃の影響を受けて憂慮すべき生産量には達しなかつたが一九二七—八年度の開花期には既に其の大豊作が豫想せられたので「サンパウロ」州政府としては「ブラジル」各輸出港への珈琲搬出に付國內の主要産州と協調するの要に迫られ一九二七年五月「サンパウロ」「ミナス」「リオ」及「エスピリト・サント」の四大産州代表を「サンパウロ」市に招集して大豊作に對する協定を爲し所謂第一回珈琲會議を開催して輸送制限上の各州の協力一致を申合せ同年九月には前記の四大産州の外に「バイーア」「ペルナンブーコ」及「パラナ」の三州を加へた珈琲産州七ヶ州の第二回會議の開催に依つて一層の協調を強め且つ珈琲宣傳費に充つる目的

の爲一袋に付二百「レース」の宣傳税を制定し又一九二八年九月並一九二九年九月には前記の七ヶ州に「ゴヤス」州を加へて第三回及第四回會議を開き保護實施を完全に討究し其の協約を履行して「ブラジル」舉國一致の珈琲保護の實を擧げんことを期した。

右四回に亘る諸珈琲産州間に締結せられたる協約の要旨は左の通りである

一、各輸出港に於ける在荷限度を左の如く定む

サントス港	一、二〇〇、〇〇〇袋
リオ・デ・ジヤネーロ港	三六〇、〇〇〇
グイクトリア港	一五〇、〇〇〇
バイーア港	六〇、〇〇〇
レシーフエ港	五〇、〇〇〇
パラナグア港	五〇、〇〇〇
合 計	一、八七〇、〇〇〇

右の限度に達する迄は前月中に輸出せられたる數量丈けの入荷を爲し消費國の市價を低下せしめざる程度に補給を爲す

二、各州共「サンパウロ」州通行税を認むること

三、珈琲の宣傳費として一袋に付二百「レース」の紙幣税を徴收すること

四、「ブラジル」珈琲の保護を「サンパウロ」州珈琲保護局に一任すること

「ブラジル」の珈琲保護政策は之を二期に分ちて考へねばならぬ即ち「タウバテ」會議の一九〇六年より

一九二七年の第一回珈琲會議迄を其の第一期とし第一回珈琲會議以降を第二期とするものである。

凡そ一商品の需要供給を調節して其の市價を或位置に維持せんとする方法は決して經濟原則に悖るものではないが珈琲の如き商品を「ブラジル」の如き國柄に於て其の需給の調節を完全に爲さんとせば市場より巨量の商品を外債に依つて一時に買收し市價を急激に釣上ぐると云ふが如き不健全なる投機作用は有害にして珈琲市價釣上げの一事の爲に爲替市場、金融市場、諸物價等に急激なる衝動を與へて巨大なる損失を招く筈のものである然るに之を一時的買收の急激なる方法に依らずして四時不斷に輸送制限を行つて其の他の因子と共に定常的に之を調節すれば忌むべき財界の衝動も起らず健全に近き保護法となる第一期は此の試練の前法を行つた海外財政家の所謂「世界的」一大投機」の時代であり第二期に入つて初めて「ブラジル」は健全なる經濟原則に基く保護法を發見したものと謂ふことが出来る宜なる哉世界資本家、財政經濟家は一致して「ブラジル」の調節保護法を稱讚し最早や投機分子的分子を云爲する者がなくなつた。

八、「サントス」港に於ける珈琲取引

「サンパウロ」州珈琲産地と其の輸出港たる「サントス」市場とを結ぶ鐵道線は現今唯だ「サンパウロ」鐵道の一路あるのみである（一九三〇年完成開通の豫定なる「ソロカバーナ」鐵道「マイリンク」）「サマリタ」「サントス」支線は目下工事中）故に「サンパウロ」州奥地調節倉庫より「サントス」港へ搬出せられる珈琲は悉く「サンパウロ」鐵道の取扱ふ處である。

最近珈琲保護制度輸送制限の下に日々「サントス」市場へは平均三萬五千袋（日曜日、祭日を除く）の珈琲が入荷して居るが此の入荷數量に略々準じたる珈琲が船便毎に海外消費國へ向つて「サントス」港より輸出せられて居る。

左表は最近六ヶ年間に於ける「サントス」市場の入荷、輸出及在荷數量を示すものである（單位一千袋）

年 度	入 荷	輸 出	在 荷
一九二一—三年	六、八一二	八、二七八	一、〇七九
一九二二—四年	一〇、三二六	一〇、一九三	一、二〇二
一九二四—五年	八、八九七	九、〇一八	一、六一四
一九二五—六年	九、〇七九	九、四八三	一、二一三
一九二六—七年	九、四七九	九、八七二	八四九
一九二七—八年	一〇、二五四	一〇、〇〇〇	一、一〇八

珈琲が「サントス」市場へ到着すると「コンミッサリオ」の倉庫、「ドック」會社の倉庫、輸出業者の倉庫又は倉庫會社の倉庫へ一時收容せられる。

「コンミッサリオ」の大部分は自己の私設倉庫を所有して居るが然らざるものは「ドック」會社の貸倉庫を借入れて居る輸出業者も同然である倉庫専門の會社は輸出業者及「コンミッサリオ」の爲に寄託珈琲を保管し亦其の依頼に應じて優秀なる再精製機を以て輸 outgoing 珈琲の袋詰め、看貫、混合、再精選、人手選分け、整粒其の他の珈琲加工、再精製諸作業を營業の主たる項目として居る倉庫業者の収益の五割以上は右の珈琲作業より來るもので保管料収益は總収益額の三割足らずであると云ふ。

珈琲が「サントス」市場へ入荷して之が輸出せられるに至る迄の平均保管期間は約二ヶ月半である故に「サントス」市場總入荷高の百二十萬袋を延袋數に見ると一ヶ年間の延袋數二千四百四十萬袋で保管料は一ヶ月一袋に付二百「レース」の率である。

正規の倉庫證券を發行する権能あるものは前記の中十會社の専門倉庫會社と「ドック」會社のみであつて其他は皆證券倉庫でなく單なる保管所に過ぎぬ此の證券倉庫及其他の「サントス」市場諸倉庫を合し「サントス」市場の總保管容積は約五百萬袋であるが現今は其の中の百二十萬袋より利用せられて居らぬ之は調節制度實施前の收穫期に「サントス」市場へ珈琲の殺到した時代（其の多き時は在荷七百萬袋を算した）の遺物であつて現今は殆ど廢物となつて居る。

入荷より海外輸出迄の間に於ける「サントス」市場の珈琲取引は主として「コンミッサリオ」及珈琲輸出業者の取扱ふ處で普通「コンミッサリオ」が賣主輸出業者が買主の地位に立つ現今では輸出業者で奥地へ人を派して生産者より直接買付ける場合もあり又「コンミッサリオ」が輸出業を兼業する者も出來たが大體の順序としては最初「コンミッサリオ」が生産者より受荷した珈琲を輸 outgoing 向きの等級、荷口に作成し之を仲立人又は仲買人に依つて現物又は先物として自由市場乃至取引所に於て最後の買主たる輸出業者へ賣込み輸出業者が之を船積して海外へ輸出するものである輸出迄の精製加工は「コンミッサリオ」、倉庫業者及輸出業者共に之を行ひ分業的となつて居らぬ而して三者共に此の珈琲作業に莫大なる利得を占むるもので彼等の營業の主要なる種目となつ居る。

「サントス」市場の珈琲取引を行ふ「コンミッサリオ」は總數大、中、小のものを合せて約百十餘商社あ

るが大なる者は資本金五千「コント」小なるものは一千「コント」各々軒を「センター」街に列べて活潑に營業して居る現今運轉して居る「コンミッサリオ」の總資金額は約二十七萬「コント」であつて之を六十萬「コント」以上に活用して居ると云ふことである。

「ブラジル」の「コンミッサリオ」と云ふのは日本の問屋營業に近く英米の Commission Agent に似たもので「ブラジル」法特異の商業制度である彼等は生産者より商業委託の形式の下に珈琲を受託し自己勘定を以て之を第三者に販賣する而して販賣後に其の代金を清算するが生産者と商談が成立すると珈琲の鐵道貨物引換證擔保の下に生産者に對して前貸金なる名義を以て珈琲價格の七掛より八掛迄の擔保價格に於て年利一割二分、受託珈琲に依つて償還を受ける條件の下に貸付をする又同様の條件の下に生産珈琲樹を擔保として一本當り「ミルレース」の割合で前貸しする習慣であるが輸送制限令の實施以來其の回收迄に多大の歳月を要することゝなつた爲現今では餘り此の貸出しを欲しない模様である「コンミッサリオ」は珈琲を賣買する外前記の如き銀行貸付業務をも爲すものであるが此の前貸しを爲さぬ「コンミッサリオ」は其の存在さへ疑はれる状態となつて居る「コンミッサリオ」の収益は受託珈琲の精製加工と前貸營業の貸付利子と賣買「コンミッション」とが其の主項を成して居る「コンミッサリオ」の如き特殊の取扱商が出来た由來を茲に略説すれば既述の通り「サンパウロ」州の珈琲栽培は十九世紀の初め頃州民の總てが殆ど他を棄て、珈琲に走つたのであるから其の產出高の年々急増して行つたことは云ふ迄もなく當時「サントス」又は「サンパウロ」市には現今の如く完全なる金融機關が無かつた爲生産者と輸出商（當時は殆ど外商）との間に立つて金融上の斡旋をしたのが此の「コンミッサリオ」であつて彼等は自己又

は輸出業者の勘定を以て生産者に對し其の收穫する珈琲の出荷又は先物を擔保として必要な資金を提供した當時「コンミッサリオ」が生産者に對して融通した金額は莫大なものであつたと云ふ。

「サントス」市場に於ける「コンミッサリオ」商社の主要なるものは大耕主、銀行家並政界の有力者等を其の組員又は株主として居るから自然是等の耕地に生産する珈琲を取扱ひ金融其の他の便宜を得る「サントス」市場の「コンミッサリオ」商社は個人經營のもの少なく其の多くは合資、合名又は株式會社組織である。

左記は「サントス」市場に於ける主なる「コンミッサリオ」商社の國別表である。

「ブラジル」人商社

A. Ferreira e Cia.

Almeida Prado e Cia.

Andrade Junqueira e Cia.

Baccarat e Cia.

Cia. Paulista de Exportação.

Cia. Prado Chaves.

J. C. Mello e Cia.

Junqueira, Carvalho e Cia.

Junqueira Netto e Cia.

Junqueira, Meinelles e Cia.

Lima, Nogueira e Cia.
 Martins, Wright e Cia. Ltd.
 Nioac e Cia. Ltd.
 Piconé e Filhos. Ltd.
 Raphael Sampaio e Cia.
 Rodrigues Alves e Cia.
 S. A. Levy.
 Sampaio Bueno e Cia.
 Silva, Ferreira e Cia.
 Whitaker, Brotero e Cia.

米國人商社

American Coffee Corp. Inc.
 Arbuckle e Cia.
 Hard, Cand e Cia.
 J. Aron e Cia. Ltd.
 Leon Israel Co. S. A.
 Mc Laughlin e Cia.
 Vicri, S. A.

英國人商社

Brazilian Warrant Agency & Finance Co.
 E. Johnston & Co. Ltd.
 Naumann, Gepp e Cia. Ltd.
 獨逸人商社
 Nossack e Cia.
 Theodor Wille e Cia.
 日本人商社
 Mizukami e Cia. (Casa Tozan)

産地より珈琲が「コンミッサリオ」に到着すると之を種類別に分ち先づ第一に袋を開きて品質の鑑定をする夫れより二通りの見本を取出し一つを後日の参考見本として保存し他の一つを事務所の鑑定部へ送る。

鑑定人は市場最適當の等級品作出の割合を定め之に従て倉庫内では到着の儘の珈琲を袋より取出して床上に擴げ甲、乙の生産者の珈琲を一緒に混合し再精製加工し出來上つた新商品を輸出向の袋數の荷口に纏めて此の新成品より三通りの見本を抽出し一つを控見本、二を事務所保存分、三を市場販賣用見本とする故に「コンミッサリオ」が市場で販賣する見本は産地より最初到着した儘のものでは無く「コンミッサリオ」が甲、乙、丙の生産者の珈琲を混合して新に作成した等級の全然違つたものである之を「コンミッサリオ」の荷口と謂ふ。

珈琲の賣買は三百瓦罐入り見本に依り口頭又は文書を以て商はれる口頭の場合には後刻又は翌日文書

及仕切状を交換する市場では口頭で数千袋又は数万袋の大取引が行はれ刻々に市價は移動しても賣買者間には信用が発達して居るから違約、變更などは起らぬ違約變更などした商社は翌日より市場の黒表に入られる。

「サントス」港に於ける珈琲市場は之を三ヶ市場に分けることが出来る即ち

- 一、現物を以て取引所外に於て直接取引をする市場
- 二、賣主と買主との間に直接行はれる先物の直接取引市場
- 三、「サントス」珈琲取引所を通じて行ふ先物市場

であるが右の中一の現物市場には「リオ」市場に於ける「Centro de Comercio de Café」の如き中心機關となるものなく單に街頭、店頭、事務所又は書信等で自由に行はれる、二の直接取引も自由取引である、三の取引所經由のものは「サントス」珈琲取引所内で行はれ清算所に賣買の登記をする。出來高より見れば「サントス」市場内で日々平均二萬袋より三萬袋の賣買取引のある内現物取引が二萬五千袋を占め次で三四千袋先物の直接取引、最後に一二千袋取引所經由の先物取引と云ふ順序である即ち「サントス」市場の珈琲取引は殆ど取引所外にて行はれる自由取引で占めて居る。

取引所内の先物取引は一千袋を單位とし六ヶ月の限月制で相場が建つ立會は午前十時半の前場と午後三時半の後場で二度寄付く取引所の取引は其の取引所のみで賣買を扱ひ公認の珈琲仲立人の資格ある者に限りて立會ひ(現在四十五人)清算所の手續も右の仲立人のみが取扱ふ取引所は先物賣買のみであつて現物取引は行はぬ。

直接取引とは其の實質に於て取引所内の先物取引と同様であるが其の賣買兩者間に清算所の保證無く全然兩者間の信用を以て基礎となし決定上には實物引渡法あるのみで差金決済の便法が無い唯だ取引所の先物賣買には一千袋單位其他の不便ある上に一袋に付約二「ミルレース」の費用を要するが直接取引には取引數量に限度なく限月に定めなく費用も一袋に付四、五百「レース」より要せぬと云ふ現物と直接の自由市場は平日は午後五時半、土曜日は午後三時迄である。

「サントス」市場に於ける珈琲取引は前述の通り大部分現物 (Disponivel) 取引である今此の取引方法を説明すれば賣手と買手との間に賣買が成立すると賣手は同日又は翌日賣つた珈琲に對する仕切状を買手に渡す仕切状には賣買の日より三十日の期限で支拂に對し荷物を引渡す旨が記載しある從て賣手は三十日以内に現物を引渡し又買手は支拂の義務が生ずる若し支拂期日前に前拂される場合には残りの日數に對しては六歩の割引をする商習慣となつて居る買手は此の期限内に仕切状と現物とを突合せて其の重量及状態を檢查することが出来る而して期日満了後は賣手は等級品質以外には總ての責任は解除されるが萬一袋表に捺印してある等級品質に對して内部の珈琲に相違あつた場合には何時でも賠償の義務がある若し取引上に紛議の起る様な場合には取引所及商業會議所に毎年任命せられる商業仲裁裁判人があつて珈琲取引に關する一切の問題を解決する此の判決に對しては何人も絶対に服従するので未だ曾て正式に訴訟を起して法廷で争つたことが無いと珈琲商等は誇つて居る。

「サントス」市場の珈琲等級は北米紐育珈琲及砂糖取引所と「サントス」珈琲取引所との間に協定の珈琲等級制—第一級品より第九級品迄の九等級に珈琲を分けるものを採用し「サンバウロ」州産珈琲の最

BOLSA OFFICIAL DE CAFE'

TABELLA OFFICIAL PARA CLASSIFICACAO

Latas de 450 grammas

DEFEITOS	TIPO	PONTOS	DEFEITOS	TIPO	PONTOS
0		+ 75	115	6	- 100
1	2 + 20	+ 70	123	6 - 5	- 105
2	2 + 15	+ 65	131	6 - 10	- 110
3	2 + 10	+ 60	139	6 - 15	- 115
4 e 5	2 + 5	+ 55	147	6 - 20	- 120
6	2	+ 50	154	6 - 25	- 125
7	3 + 20	+ 45	163	6 - 30	- 130
8	3 + 15	+ 40	172	6 - 35	- 135
9 e 10	3 + 10	+ 35	181	6 - 40	- 140
11 e 12	3 + 5	+ 30	190	6 - 45	- 145
13	3	+ 25			
14, 15 e 16	4 + 20	+ 20	200	7	- 150
17, 18 e 19	4 + 15	+ 15	225	7 - 5	- 155
20, 21, 22 e 23	4 + 10	+ 10	250	7 - 10	- 160
24, 25, 26 e 27	4 + 5	+ 5	275	7 - 15	- 165
28, 29 e 30	4		300	7 - 20	- 170
			325	7 - 25	- 175
33	4 - 5	- 5	350	7 - 30	- 180
36	4 - 10	- 10	375	7 - 35	- 185
39	4 - 15	- 15	400	7 - 40	- 190
42	4 - 20	- 20	425	7 - 45	- 195
44	4 - 25	- 25			
46	4 - 30	- 30	450	8	- 200
49	4 - 35	- 35	490	8 - 5	- 205
52	4 - 40	- 40	530	8 - 10	- 210
55	4 - 45	- 45	570	8 - 15	- 215
			610	8 - 20	- 220
58	5	- 50	650	8 - 25	- 225
63	5 - 5	- 55	690	8 - 30	- 230
68	5 - 10	- 60	730	8 - 35	- 235
73	5 - 15	- 65	770	8 - 40	- 240
79	5 - 20	- 70	810	8 - 45	- 245
86	5 - 25	- 75			
94	5 - 30	- 80			
100	5 - 35	- 85	850	9	- 25
105	5 - 40	- 90			
110	5 - 45	- 95			

も多数を占める第四級型を「サントス」市場の標準珈琲とする（「リオ」市場の標準珈琲は第七級型等級は主として珈琲中に混入する夾雑物（木片、礫、外皮、不完全なる果粒）の數に依り「サントス」珈琲取引所の制定する珈琲等級格付公定表に従て之を定める其の他の各等級價格も右の公定表に據り第四級標準品の價格より算定される取引所では珈琲の等級格付け評價及鑑定を公認の鑑定人に行はせ其の證明書を發給する。

「サントス」珈琲取引所は一九一四年七月十四日附法律第一四一六號に依りて創立せられたる州立取引所であるが歐洲大戰の爲其の開設を見たるは一九一七年五月二日であつた而して其の附屬「サントス」清算所は資本金三千「コント」（全額拂込済）の株式會社で政府は千二百「コント」の株式を所有する即ち半官的の株式組織である。

左表は「サントス」珈琲取引所制定の珈琲等級格付公定表である珈琲の格付は四百五十瓦入罐中の珈琲を點檢して其の中に一粒の缺陷（デフェクト）も無きものを第一級品とし又八百五十の「デフェクト」あるものを第九級品とする九級品以下のものは輸出品とならぬ。

同量中に二十八乃至三十「デフェクト」あるものが即ち「サントス」標準第四級型である又十四乃至二十七「デフェクト」のものと同じく廣義の四級品となる而して各等級の價格の開きは一點「ポイント」に付二十「レース」を上下することゝなつて居るから標準珈琲第四級型十斤に付三十三「ミル」五百「レース」の場合には十三「デフェクト」の三級品は標準珈琲に對し二十五「ポイント」を加算した三十四「ミルレース」となり又五級品は五十「ポイント」を減じた三十二「ミル」五百「レース」であることが判る。

「ブラジル」の珈琲輸出港は「サントス」「リオ・デ・ジャネイロ」及「ヴィクトリア」の三港を其の最も重要なものとし之に次ぐは「バイーア」「ペルナンブーコ」並最近の發達に係る「バラナグア」の諸港である。

一九二八年中是等「ブラジル」諸港より輸出せられた珈琲は一千三百九十萬五千五百五十五袋、價額二百八十七萬七千六百五十九「コント」此の英貨換算七千三十二萬五千磅に達した而して之を其の前年即ち一九二七年の輸出一千五百一十一萬五千六十一袋、價額二百五十七萬五千六百三十四「コント」此の英貨換算六千二百六十四萬八千磅に比較すれば數量に於ては百二十萬九千九百六袋を減少したが價額に於ては三十萬二千二十四「コント」此の英貨換算七百六十七萬七千磅を増加して居る今最近五ヶ年間「ブラジル」諸

九、珈琲の輸出狀況

而して又最近標準珈琲 “Molle” と云ふ語を附加した「モーン」は英語の “Soft” とあつて “Soft Coffee” を意味する之と反對に “Duro” 即ち “Hard Coffee” と云ふのがある「モーン」云ふのは乾燥不充分的爲軟弱なる珈琲を指すものではなく美味にして出の良き珈琲の意である又「ゾーロ」は同じく乾燥の過ぎた堅固なるものではなく滋味と多少の苦味ある出の悪しき珈琲を云ふものであつて大體「サントス」珈琲は「ソフト」珈琲であるが「リオ」珈琲には「ハード」珈琲が多いと云ふことである。

又 “Boa Fava” とは別段優良なる果粒と云ふことではなく單に格付の際十六番の篩に掛けたもの、ことであるから大體中形扁平種と思へば間違ないものである。

「デフェクト」の計算法は左表に準據する即ち三個の貝狀を「デフェクト」とし又青實は五個を以て「デフェクト」とするが如し以下順次之に倣ふ

Equivalencia Aproximada
Dos grãos Imperfeitos

3	Conchas.....(貝 狀).....=	1 defeito
5	Verdes(青 實).....=	1 ♪
5	Quebrados(破 片).....=	1 ♪
2	Ardidos.....(變 色).....=	1 ♪
5	Chochos ou Malgranados (歪 形).....=	1 ♪
1	Pedra Grande(大 石).....=	2/3 ♪
1	♪ Regular.....(中 石).....=	1 ♪
2/3	♪ Pequenas(小 石).....=	1 ♪
1	Pau Grande.....(大 棒 切).....=	2/3 ♪
1	♪ Regular.....(中 棒 切).....=	1 ♪
2/3	♪ Pequenos(小 棒 切).....=	1 ♪
1	Casca Grande(大 外 皮).....=	1 ♪
2/3	♪ Pequenas(小 外 皮).....=	1 ♪
1	Côco(外皮付全粒).....=	1 ♪
2	Marinheiros(内 皮 付).....=	1 ♪

(Grão Preto)

港より輸出せられた珈琲の數量を表示すれば左記の通りである。(單位一千袋)

港名	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年	一九二八年
サントス	九,五〇六	九,一〇一	九,二一九	一〇,二八八	八,九五六
リオ・デ・ジヤネーロ	三,五二七	三,二四四	三,二二七	三,〇一一	二,八一〇
グイクトリア	八三二	七六五	八〇一	九四四	一,〇二三
パイア	二五九	二四七	三四一	二五五	四一八
バルナンブーコ	六一	九五	一八二	九八	七九
バラナグア	三〇	二八	七四	二二三	四四二
其他	一一	三	九	三〇六	一七七
合計	一四,二二七	一三,四八三	一三,七五三	一五,一一五	一三,九〇五

而して右表の價額は次の如くである。(單位「コント」)

(註)

「ブラジル」の珈琲輸出に關する統計は聯邦大藏省の發刊に係る輸出入統計を最も信憑すべきものとするが其の最新刊のものには一九二六年迄しか計上せられて居らぬ統計としては少しく古きに過ぎるが他に適當なるものなきに付茲には右の統計に依り一九二四年より一九二六年迄の分を掲載することとする一九二七年並一九二八年も其の實質に於ては大同小異である

港名	一九二四年	一九二五年	一九二六年
サントス	二,〇三〇,九八六	二,〇七五,一六六	一,六五六,九三四
リオ・デ・ジヤネーロ	六六一,八一三	六〇九,六九七	四七七,五九六
グイクトリア	一六七,二五一	一四三,四二九	一二〇,九三〇

更に之を英貨に換算して示せば左表の通りである。(單位一千磅)

パイア	五〇,八九〇	五〇,四〇六	五一,六五二
バルナンブーコ	一一,〇〇五	一五,八二二	二六,九一七
バラナグア	四,四四九	五,〇九三	一一,二四七
其他	二,一七八	四七九	一,三六八
合計	二,九二八,五七二	二,九〇〇,〇九二	二,三四七,六四四
サントス	五〇,〇三八	五一,三六一	四九,〇六六
リオ・デ・ジヤネーロ	一六,〇八七	一六,〇六四	一四,一九七
グイクトリア	四,〇一〇	三,七四八	三,六三三
パイア	一,二五五	一,二七二	一,五一九
其他	四四二	五八六	一,一六七
合計	七一,八三二	七四,〇三一	六九,五八二

「ブラジル」珈琲の大顧客は北米合衆國を首位に次で歐洲諸國殊に佛、伊、獨、和、瑞等である南米諸國では「アルゼンチン」を筆頭とする左表は一九二四年より一九二六年に至る最近三ヶ年間の「ブラジル」珈琲仕向國別表である。(單位一千袋)

國名	一九二四年	一九二五年	一九二六年
北米合衆國	六,九六七	七,〇一七	七,四六六
佛蘭西	二,〇二三	一,九八七	一,四二二
伊太利	一,二四九	一,〇四二	一,〇〇七
和蘭	一,二二五	九〇四	九六一
獨逸	五三二	五一四	六九三

瑞典	四二六	三七八	四七九
亞爾然	四〇七	三二五	三七八
白耳	三九二	三三八	三二〇
丁抹	一八一	一五〇	一八四
英領南阿	一九〇	一八六	一七〇
芬蘭	七七	一〇一	一一八
アルゼリヤ	一一五	一三八	一一八
其他	四四三	四〇三	四三七
合計	一四、二二七	一三、四八三	一三、七五三

「ブラジル」珈琲は其の品質の上から之を「サントス」珈琲及「リオ」珈琲の二種類に區別されて居る。「リオ」珈琲は其の品質に於て「サントス」珈琲に比して劣るのみならず一種の臭味を帯ぶると云ふので優等品を需要する北米市場へは重に「サントス」珈琲が仕向けられて居る之に反し「リオ」珈琲は伊太利其の他地中海方面への輸出が盛んである。

「サンパウロ」州の珈琲は最近著しく樹數を増加した爲其の一ヶ年の平均産出量は一千一百萬袋と見積られる其の中國内の消費として一百万袋を差引いた一千万袋が毎年「サントス」港より輸出せらるゝにあらざれば奥地の調節倉庫に收容せられる滞貨品を益々膨脹せしむる虞がある一九二七年の輸出は一千万袋を超過したが一九二八年には八百九十五萬袋に減少して居る之は珈琲保護局が一九二八年五月以來「サントス」標準珈琲の價格を上げた爲消費國が輸入を手控えた結果であると思はれる然し其の價額に於ては一九二七年よりも一九二八年の方が増加して居る。

一九二九年上半期の輸出は四百五十萬袋と發表せられて居るから同年の輸出數量も恐らく一九二八年と略々同様であると思はれる左表は一九一九年以降「サントス」港の珈琲輸出數量、價額、同上英貨並珈琲一袋の船側價格、同上英貨換算を示すものである。

年次	數量(一千袋)	價額(セント)	同上英貨(一千磅)	一袋平均價額	同上英貨
一九一九年	九、四二六	九四六、五七六	五五、七一五	一〇〇、四一八	五、一八
一九二〇年	八、四八〇	六七一、三六一	四一、一五六	七九、一六二	五、一六
一九二一年	八、七七〇	七六一、三二七	二五、九六七	八六、八一〇	二、一八
一九二二年	八、三二九	一、〇七一、七四一	三一、五七六	一二八、六六五	三、一五
一九二三年	九、六六八	一、四八九、九五二	三三、〇九四	一五四、一〇八	三、五
一九二四年	九、五〇五	二、〇三〇、九八五	五〇、〇三七	二一三、六五七	五、五
一九二五年	九、一〇一	二、〇七五、一六五	五二、三六一	二二八、〇一四	五、八
一九二六年	九、二二七	一、六五六、九三四	四九、〇六六	一七九、五六八	五、三
一九二七年	一〇、二八四	一、八六五、六七〇	四五、四〇一	一八一、四〇五	四、四
一九二八年	八、九五六	一、九九四、三〇八	四八、九三六	二二二、六七七	五、五

「サントス」珈琲の重なる仕向國は既述の通り北米合衆國で總輸出額の約七割を占めて居る之に次ぐは佛、獨、和、伊、白、丁等歐洲諸國である今一九二六年及一九二七年の二ヶ年間に「サントス」港より輸出せられた珈琲を各國別に示せば次の通りである。

國名	一九二六年		一九二七年	
	數量(千袋)	價額(セント)	數量(千袋)	價額(セント)
北米合衆國	六、一〇二	一、〇九七、六七一	六、六〇三	一、二〇四、七三〇
佛蘭西	七二〇	一二八、三〇九	一、〇〇九	一八一、三七〇
獨逸	四八九	八九、四〇七	七二一	一二九、二六四
和蘭	七三四	一三二、六〇〇	六九〇	一二四、一七六
伊太利	三二四	五八、五一六	三四三	六一、七四四
瑞典	二九二	五二、二六七	二八九	五二、〇七三
白耳義	一六九	三〇、四〇九	二二四	三九、八三四
丁抹	一四四	二五、九五四	一三〇	二二、一八三
亞爾然	一〇三	一八、五一八	一〇二	一八、〇二〇
其他	一四九	二二、二八三	一七三	三一、二七六
合計	九、二二七	一、六五六、九三四	一〇、二八四	一、八六五、六七〇

北米の重なる珈琲市場は紐育、「ニュー、オルレアンズ」及「ポストン」等米國東部並「ガルフ」地方であるが近年西部地方に於ける珈琲の需要が増進した結果桑港が米國に於ける重要市場の一つに加はつた歐洲諸國に於ては「ハーブル」を第一位とし次に漢堡、「アムステルダム」等の順位である今一九二八―九年度中「サントス」港より十萬袋以上を輸出した各港別の數量を左に表示する

港名	數量(袋)
紐育	二、七七二、四〇九
ニューオルレアンズ	一、七五四、一〇六
ハーブル	八四六、八五四

604
38

漢堡	四八七、五一六
アムステルダム	三三三、〇一三
ポストン	二九一、五六二
桑港	二〇九、七一九
ロッテルダム	二〇二、六九〇
安土府	一九七、四八六
費府	一三一、七九四
ゼン	一二三、一四二
バルチモア	一一八、九七〇
ブレーメン	一一七、六四九
コーペンハーゲン	一一五、七五二
シヤクンビール	一一〇、三〇〇
ストックホルム	一〇一、九二二

「サントス」港に於ける珈琲輸出商は内外商を合せて約一百に達する其の中一九二八―九年度に於て十萬袋以上を輸出した商社名と共に其の取扱量を左に表示する

商社名	取扱數量(袋)
Theodor Wille e Cia.	九一八、八九九
American Coffee Corp. Inc.	八六九、八九〇
J. Aron e Cia. Ltd.	七二九、二二〇
Hard, Rand e Cia.	六五九、七二一
Naumann, Gepp e Cia. Ltd.	五八七、四九六
Leon Israel e Cia. S. A.	五二六、八〇三

Almeida Prado e Cia.	四〇九、九六二
E. Johnston e Cia. Ltd.	三七〇、二九七
S. A. Levy.	三三三、三八三
Lima, Nogueira e Cia.	二二九、二八七
Andrade Junqueira e Cia.	一〇九、三九二
Martins, Wright e Cia. Ltd.	一九五、六九七
Cia. Prado Chaves.	一八九、二二一
Cia. Leme Ferreira.	一六二、九二六
Sampaio Bueno e Cia.	一四四、八七八
Silva, Ferreira e Cia.	一四三、〇三二
S. Nacional Exportadora, Ltd.	一二五、一二七
Nossack e Cia.	一一九、九五三
Arbuckle e Cia.	一一四、二四八
The Asiatic Trading Co. Ltd.	一一二、〇九二

近年本邦に於ける珈琲の需要は毎年増加して居る許りでなく生果珈琲を輸入して内地で煎焙を行ふ様になつたが其の原料珈琲を主として桑港から買ふのは運賃諸掛りの點から見て甚だ不利益なることである。「サントス」より桑港迄の運賃は一袋に付米貨一弗又「サントス」より日本諸港迄は一噸に付三磅十志であるから約一弗となる即ち「サントス」より桑港迄の運賃と日本諸港迄の運賃とは殆ど同率であるから「サントス」より直輸の途を開けば結局桑港より日本迄の運賃税金其の他の経費を軽減することとなる、殊に船便も日本郵船、大阪商船會社が直通航路を開いて歸り荷を搜して居る折柄であるから當業者は之を利用すれば利益となることと思はれる。

(附録) 世界の珈琲生産と其の消費

「ブラジル」は珈琲の世界總生産高の七割を占め生産國としての優勢を示して居るが今日熱帯及亞熱帯で之を産出せぬ處は無い、最近の調査に依れば全世界の珈琲樹數は三十三億餘本と算せられ其の中「ブラジル」は二十二億本「ブラジル」以外の樹數は十一億本である、今之を各國別に表示すれば次の通りである

國名	樹數(本)
コロンビア	三〇〇、〇〇〇、〇〇〇
ヴェネズエラ	一三三、〇〇〇、〇〇〇
蘭領東印度	一二九、二四〇、〇〇〇
メキシコ	八〇、〇〇〇、〇〇〇
グアテマラ	七五、二五〇、〇〇〇
サルヴァドル	七二、〇〇〇、〇〇〇
ハイチ	六三、〇〇〇、〇〇〇
ホルトリコ	五四、六〇〇、〇〇〇
コスタリカ	三二、〇〇〇、〇〇〇
英領東アフリカ	二八、二七五、〇〇〇
ニカラガア	二七、九六〇、〇〇〇
英領西印度	二五、〇〇〇、〇〇〇
ホンデユラス	五、四〇〇、〇〇〇

其 他	九二、二六一、〇九九
計	一、一七、九八六、〇九九
ブラジル	二、二五七、〇二〇、五七五
總 計	三、三七五、〇〇六、六七四

「ブラジル」に次ぐ主要産地は「コロンビア」及「ヴェネズエラ」である最近「コロンビア」は其の産額著しく増加し世界第二の珈琲産出国となつたのみならず豊沃廣大なる土地を把持し然も其の生産品に至つては所謂代表的「マイルド」珈琲の産地で北米市場に於ては常に其の品質を以て「ブラジル」珈琲を壓倒し「ブラジル」珈琲に取りては大なる脅威とせられて居る「ヴェネズエラ」も亦殆ど同様の状態に在つて將來相當の發展を見るべく期待されて居る是等「ブラジル」を始め南米諸國の生産する珈琲は世界總産額の大部分を占め其の七割五分に相當する。

南米に次ぐ珈琲生産地は中米である即ち「グアテマラ」「サルヴァドル」「ホンデユラス」「ニカラガア」及「コスタリカ」諸國の高原地帯に於て栽培せられる、珈琲は年一回の開花を見るのみで理想的珈琲産地として知られて居るが其の土地狹隘にして最早や現在以上發展の餘地がない、又「メキシコ」に於ける栽培地は同國南部即ち「グアテマラ」國境附近である故に地理的に之を見れば中米の一部に加へることが出来る、是等中米及「メキシコ」の生産する珈琲は世界産額の一割に當る。

西印度諸島に於ては「ハイチ」「ポルト・リッコ」「玖瑪」「ジャマイカ」及「サント・ドミンゴ」等を主要産地とするが其の生産額から見れば僅に世界の五分に當るに過ぎぬ。

亞細亞諸國では蘭領東印度即ち「ジャバ」を重要産地とし次で英領東印度及馬來聯邦等であるが珈琲

市場に於ては未だ重きを爲さぬ、獨り「ジャバ」珈琲は特殊の品質を以て歐米市場に於ては獨得の地位を占めて居る而して其の産額は世界生産の約一割に達する。

今一九一八—九年度以降「ブラジル」以外の世界珈琲生産高を表示すれば次の通りである。

年 度	數 量(袋)
一九一八—一九年	四、五〇〇、〇〇〇
一九一九—二〇年	七、六八一、〇〇〇
一九二〇—一年	五、七八七、〇〇〇
一九二一—二年	六、二九六、〇〇〇
一九二二—三年	五、七〇五、〇〇〇
一九二三—四年	六、八六八、〇〇〇
一九二四—五年	六、七六二、〇〇〇
一九二五—六年	七、〇四七、〇〇〇
一九二六—七年	七、〇六八、〇〇〇
一九二七—八年	八、〇〇三、〇〇〇

而して一九二八—九年度の生産高は九百四十四萬袋と豫想せられて居る之を各國別に表示すれば次の通りである。

國 名	數 量(袋)
コロンビア	二、六〇〇、〇〇〇
蘭領東印度	二、一〇〇、〇〇〇
ヴェネズエラ	一、〇〇〇、〇〇〇
英領東アフリカ	七八〇、〇〇〇

グアテマラ	六五〇、〇〇〇
サルヴァドル	五五〇、〇〇〇
ハイチ	五五〇、〇〇〇
メキシコ	三六〇、〇〇〇
ニカラガア	二五〇、〇〇〇
コスタ、リカ	二二五、〇〇〇
其他	三七五、〇〇〇
合計	九、四四〇、〇〇〇

一九一八—一九二八年度以降「ブラジル」以外の珈琲生産高を見ると年々遞増の傾向にある、殊に一九二八—九年度の如きは前年に比し一百四十萬袋の増加豫想である之は最近「ブラジル」が珈琲價格調節の爲市價を引上げたるに依りて他産國に於ける栽培を刺戟した結果であると見られる殊に「コロンビア」の如きは其の著例である。

「ブラジル」が世界珈琲生産の五割乃至七割を占有することは「ブラジル」の珈琲保護政策を遂行する上に是非共必要であるが「ブラジル」政府の諸種の名目の下に過重なる課税、從來の誤つた珈琲價格釣上げに依る外債の重荷、諸物價指數の法外なること等は珈琲の生産費を高からしめ且つ未だ幼稚なる域を脱せざる栽培、精製、加工の方法は世界市場に於ける「ブラジル」珈琲の聲價と地歩とを第一位に置かす爲に「シユブリーマシー」把持に對する「ブラジル」國內珈琲樹の増植を頭上より壓する形であり就中「サンパウロ」州の如き現統領「ジュリオ・プレステス」氏の就任以來「珈琲の品質良化」を絶叫して從來保護局の擔任なりし品質改善の策を特に農務部に移管した程であるが「ブラジル」の世界珈琲市場に於ける

604
38

他産國との Long run には結局北米市場の要求しつゝある生産費を第一位に置かずして消費者の購買限度を第一位に置く原則の上に「ブラジル」は生産せねばならぬ、供給を需要を超過したるとき商品の賣價を生産費の方へ切詰めて一步なりとも購買者の數字に近付かしむることは珈琲に限らず總ての商品賣價上の經濟的原則である、況んや「ブラジル」以外の他産國の増産と品質の向上漸を遂ふて顯著なる折柄量を定數として其の上に質の良化を「モットー」とすべきは明瞭なことである、「ブラジル」は世界生産に於て七割の地位を占め外債に依つて生産過剩額を保護政策と云ふ貯藏法を以て不自然なる抑留を爲すと云ふ様な方法でなく「ブラジル」は生産に於て世界の五割以上を占め其の品質は世界に冠絶し他産國の追從を許さず量に於ては過去の記録に叛くも其の品質に於て其の價格に於て其の過剰分なき需給状態に於て「ブラジル」の經濟的基礎は確保せられ最早や保護政策貨幣安定策など、原始的經濟の二大則必要の域を脱したりと云ふ「アイデューアル」であり度い、要するに「ブラジル」珈琲の將來は現状に準じたる比率の増産を防ぎ専ら品質向上の程度如何と幣制安定の効果如何に存するものと思はれる。

珈琲の消費は近年比較的順調なる徑路を辿つて居る、珈琲は素と茶及「コ、ア」と共に三大嗜好飲料品として發達した歴史を有するが現在に於ては珈琲は最早や單なる嗜好品にあらずして食料品の領域に迄喰込んで居る、又珈琲は一種の興奮劑として藥品にも使用せられて居る。

今一九二一—二二年度以降世界の珈琲消費高を「ブラジル」産と「ブラジル」産以外に區別すれば左表の如くである。

年 度	「ブラジル産」	「ブラジル産以外」	計 (一千袋)
一九二一年	一一、八六四	六、八五三	一九、七一七
一九二二年	一一、九五九	六、二〇三	一九、一六二
一九二三年	一五、三二二	六、七一四	二二、〇三六
一九二四年	一三、六八二	六、八二四	二〇、五〇六
一九二五年	一四、五六五	七、一四〇	二一、七〇五
一九二六年	一四、二七六	七、〇二二	二一、二九八
一九二七年	一五、七六六	七、七七〇	二三、五三六
一九二八年	一五、七六六	七、七七〇	二三、五三六
一九二九年	一五、三九三	三、四七八	一九、八七一
一九三〇年	五、六七九	三、〇九四	八、七七三
一九三一年	六、八六一	三、三八四	一〇、二四五
一九三二年	六、〇九四	三、八一	九、九〇五
一九三三年	六、〇六一	三、九八七	一〇、〇四三
一九三四年	五、七五九	四、〇一九	一〇、八五五
一九三五年	六、三七一	四、五二四	一一、八九五
一九三六年	六、一七〇	三、三七五	九、五四五
一九三七年	六、六二一	三、一〇九	九、七三〇
一九三八年	七、四二七	三、三三〇	一〇、七五七
一九三九年	七、四二七	三、三三〇	一〇、七五七
一九四〇年	七、四二七	三、三三〇	一〇、七五七

次に又北米合衆國の消費高を區分すれば左記の通りである。

年 度	「ブラジル産」	「ブラジル産以外」	計 (一千袋)
一九二一年	六、一七〇	三、三七五	九、五四五
一九二二年	六、六二一	三、一〇九	九、七三〇
一九二三年	七、四二七	三、三三〇	一〇、七五七
一九二四年	六、五六三	三、〇一三	九、五七六
一九二五年	七、六三二	三、一五三	一〇、七八五
一九二六年	七、五一一	三、〇〇三	一〇、五一六
一九二七年	八、一六二	三、二四六	一一、四〇八

世界生産珈琲の約半数を消費する北米合衆國の消費珈琲中「ブラジル」産は五割乃至七割を占めて居る、而して「ブラジル」以外の産地品にては何處の國の珈琲を消費するか左表は最近五ヶ年間(曆年)北米の珈琲輸入を産地別に示したものである。(單位一千袋)

國 名	一九二三年	一九二四年	一九二五年	一九二六年	一九二七年
ブラジル	七、〇九五	七、一二七	六、六〇五	七、六七七	七、七四九
コロンビア	一、六八〇	一、八六七	一、六〇七	二、〇六四	一、九〇九
中央アメリカ	八九七	七二三	四七三	六七七	三六二
グエネズエラ	四一一	四九二	四二一	四〇二	三四三
メキシコ	二九五	二一〇	二〇八	二〇四	一七一
南領東印度	九〇	二〇二	二〇四	一三二	一五三
アンチール	六三	五三	八九	五五	五八
アンチール	一七	四八	四六	四九	二八
アデン	一三八	四二	六九	五三	八三
其他	一〇、六八六	一〇、七六五	九、七二二	一一、三一一	一〇、八五六
合 計	一九、三三三	一九、二四六	一九、二四六	一九、二四六	一九、二四六

一九二一年—二年度以降一九二七—八年度に至る六ヶ年間に於ける世界の珈琲消費數量は約四百萬袋を増加し其の中歐洲約二百萬袋、北米約二百萬袋の割合を示して居る而して之を「ブラジル」産と「ブラジル」産以外とに區別すれば「ブラジル」産は約三百萬袋「ブラジル」産以外は約百萬袋の比率となる。

將又北米合衆國に於ける消費珈琲は一九二三年より一九二七年に至る四ヶ年間に「ブラジル」珈琲は七十餘萬袋を増加し之に對し「コロンビア」珈琲は二十餘萬袋を増加したのみである珈琲の消費は近年益々世界的に擴張せられるのみならず「ブラジル」以外の他産國品の數量の増加率に對し「ブラジル」の夫れは顯著なる優越的地歩を現して居る今後「ブラジル」が北米を始め世界の新販路に向つて珈琲の宣傳に努むるならば「ブラジル」の珈琲輸出は逐年増加するものと觀測せらるゝ。

左表は一九二九年九月「サンパウロ」市に開催せられたる第四回珈琲産州代表者會議へ「サンパウロ」州財務長官兼珈琲保護局總裁「ロリン・テレス」氏の報告せる一九〇一年以降「ブラジル」珈琲の輸出並一九〇五—六年度以降世界の珈琲生産及消費統計である、表中の數字には往々本書と一致せざる處あれども参考として茲に掲載する。

「ブラジル」珈琲輸出統計

年次	數量(袋)	價額(ミルレース)	同上英貨(磅)
一九〇一年	一四、七五九、八四五	五〇九、五九八、〇一一	二二、九七九、三七九
一九〇二年	一三、一五七、三八三	四〇九、八四〇、五二六	二〇、三二六、九五五
一九〇三年	一二、九二七、二三九	三八四、九二七、六四四	一九、〇七六、二七七
一九〇四年	一〇、〇二四、五三六	三九一、五八七、五二九	一九、九五七、五七〇
一九〇五年	一〇、八二〇、六六一	三二四、〇五一、二六一	二一、四二〇、五一五

年次	數量(袋)	價額(ミルレース)	同上英貨(磅)
一九〇六年	一三、九六五、八〇〇	四一八、三九九、七四二	二七、六一五、八八四
一九〇七年	一五、六八〇、一七二	四五三、七六四、五七一	二八、五五九、〇六三
一九〇八年	一二、六五八、四五七	三六八、二八五、四二四	二二、〇三九、二二一
一九〇九年	一六、八八〇、六九六	五三三、八六九、七〇九	三三、四七五、一七〇
一九一〇年	九、七二三、七三八	三八五、四九三、五六〇	二六、六九六、四一三
五ヶ年合計	六八、九〇八、八六三	二、一五九、八一三、〇〇六	一三九、三八五、七六一
五ヶ年平均	一三、七八一、七七三	四三一、九六二、六〇一	二七、八七七、一五二
一九一一年	一一、二五七、八〇二	六〇六、五二八、九四九	四〇、四〇一、二〇六
一九一二年	一二、〇八〇、三〇三	六九八、三七一、一八三	四六、五五八、〇七九
一九一三年	一一、二六七、四四九	六一一、六六九、六七三	四〇、七七九、三四三
一九一四年	一一、二六九、七二四	四三九、七〇七、三六六	二七、〇〇〇、二三一
一九一五年	一七、〇六一、三九八	六二〇、四八九、六七六	三二、一九〇、五四七
五ヶ年合計	六四、九三六、六七六	二、九七六、七六六、八四七	一八六、九二九、四〇六
五ヶ年平均	一二、九八七、三三五	五九五、三五三、三六九	三七、三八五、八八一
一九一六年	一三、〇三九、一四六	五八九、二〇〇、九六三	二九、二八〇、六九四
一九一七年	一〇、六〇六、〇一四	四四〇、二五八、二八四	二二、〇五四、二七九
一九一八年	七、四三三、〇四八	三五二、七二七、二五〇	一九、〇四〇、七六四
一九一九年	一二、九六三、二五〇	一一、二二六、四六二、七七二	七二、六〇七、二〇八
一九二〇年	一一、五二四、七八〇	八六〇、九五七、五四六	五二、八二一、八五二

年	生産(袋)	消費(袋)	生産の消費に對する過不足(袋)
一九〇九—一〇年	一九,一二五,〇〇〇	一八,二二三,〇〇〇	(十) 九一二,〇〇〇
一九一〇—一一年	一四,五二四,〇〇〇	一七,一七一,〇〇〇	(一) 二,六四七,〇〇〇
一九一一—一二年	一七,三七四,〇〇〇	一七,四五四,〇〇〇	(一) 八〇,〇〇〇
一九一二—一三年	一六,四〇六,〇〇〇	一七,一二三,〇〇〇	(一) 七一七,〇〇〇
四ヶ年合計	六七,四二九,〇〇〇	六九,九六一,〇〇〇	(一) 二,五三二,〇〇〇
一九一三—一四年	一九,六一一,〇〇〇	一八,五八二,〇〇〇	(十) 一,〇二九,〇〇〇
一九一四—一五年	一七,八六五,〇〇〇	二一,六五八,〇〇〇	(一) 三,七九三,〇〇〇
一九一五—一六年	二〇,七六一,〇〇〇	二一,二〇〇,〇〇〇	(一) 四三九,〇〇〇
一九一六—一七年	一六,六九二,〇〇〇	一六,〇一六,〇〇〇	(十) 六七六,〇〇〇
四ヶ年合計	七四,九二九,〇〇〇	七七,四五六,〇〇〇	(一) 二,五二七,〇〇〇
一九一七—一八年	一八,八四七,〇〇〇	一四,八三三,〇〇〇	(十) 四,〇一四,〇〇〇
一九一八—一九年	一四,二一一,〇〇〇	一五,九六八,〇〇〇	(一) 一,七五六,〇〇〇
一九一九—二〇年	一五,一八一,〇〇〇	一八,四九九,〇〇〇	(一) 三,三一八,〇〇〇
一九二〇—一一年	二〇,二八三,〇〇〇	一八,四六二,〇〇〇	(十) 一,八二一,〇〇〇
四ヶ年合計	六八,五二三,〇〇〇	六七,七六二,〇〇〇	(十) 七六一,〇〇〇
一九二一—一二年	一九,七八八,〇〇〇	一九,七七一,〇〇〇	(十) 七一,〇〇〇
一九二二—一三年	一五,八九九,〇〇〇	一九,一六二,〇〇〇	(一) 三,二六三,〇〇〇
一九二三—一四年	二六,三四四,〇〇〇	二二,〇三六,〇〇〇	(十) 四,三〇八,〇〇〇
一九二四—一五年	一七,七七七,〇〇〇	二〇,五〇六,〇〇〇	(一) 二,七二九,〇〇〇
四ヶ年合計	七九,八〇八,〇〇〇	八一,四二一,〇〇〇	(一) 一,六一三,〇〇〇

年	生産(袋)	消費(袋)	生産の消費に對する過不足(袋)
五ヶ年合計	五五,五六六,二三七	三,四六九,六〇六,八一四	一九六,八〇四,七九七
五ヶ年平均	一一,一一三,二四七	六九三,九二一,三六三	三九,三六〇,九五九
一九二一年	一二,三六八,六一二	一,〇一九,〇六四,七五五	三四,六九三,八二一
一九二二年	一二,六七二,五三六	一,五〇四,一六六,二七八	四四,二四二,二〇二
一九二三年	一四,四六五,五八二	二,一二四,六二八,二〇九	四七,〇七七,八六四
一九二四年	一四,二二六,四八二	二,九二八,五七一,八三九	七一,八三三,〇〇二
一九二五年	一三,四八〇,〇〇〇	二,八九九,五八七,〇〇〇	七四,〇二〇,〇〇〇
五ヶ年合計	六七,二二三,二二二	一〇,四七六,〇一八,〇八一	二七一,八六六,八八九
五ヶ年平均	一三,四四二,六四二	二,〇九五,二〇三,六一六	五四,三七三,三七八
一九二六年	一三,七五一,四七二	二,三四七,六四四,七五七	六九,七五一,八八七
一九二七年	一五,一一五,〇六一	二,五七五,六三四,九四二	六二,六四八,五五七
一九二八年	一三,九〇五,一五五	二,八七七,六五九,一七八	七〇,三二五,九八七

世界咖啡生産及消費統計

一九二五—六年	二二,一〇二,〇〇〇	八二,七〇五,〇〇〇	(十)	三九七,〇〇〇
一九二六—七年	二一,七四二,〇〇〇	二一,二九八,〇〇〇	(十)	四四四,〇〇〇
一九二七—八年	二四,二二〇,〇〇〇	二二,五三六,〇〇〇	(十)	一〇,六八四,〇〇〇
一九二八—九年	二八,五九二,〇〇〇	二二,二五一,〇〇〇	(十)	三,六五九,〇〇〇
四ヶ年合計	九六,六五六,〇〇〇	八八,七九〇,〇〇〇	(十)	七,八六六,〇〇〇
二十四ヶ年合計	四五七,七〇〇,〇〇〇	四五四,一四一,〇〇〇	(十)	三,五五九,〇〇〇

一九〇五年六月末日現在自由在荷高…………… 一一,二六六,〇〇〇袋

一九二九年六月末日現在自由在荷高…………… 五,三三五,〇〇〇袋

一九二九年六月末日現在「アラシ」調節倉庫貯藏高…………… 九,三二五,〇〇〇袋

(註)

一九二九年六月末日「アラシ」調節倉庫内に貯藏する九,三二五,〇〇〇袋の珈琲は一九三〇年四月末日迄に全部輸出港へ向け搬出せらる、筈、従て一九二九—三〇年度の收穫珈琲は一九二九年七月より鐵道出荷を取扱ひ順次調節倉庫に貯藏一九三〇年五月より輸出港への搬出を開始し一九三一年八月末日を以て終了する豫定である。(完)

一九二五—六年	二二,一〇二,〇〇〇	八二,七〇五,〇〇〇	(十)	三九七,〇〇〇
一九二六—七年	二一,七四二,〇〇〇	二一,二九八,〇〇〇	(十)	四四四,〇〇〇
一九二七—八年	二四,二二〇,〇〇〇	二二,五三六,〇〇〇	(十)	一〇,六八四,〇〇〇
一九二八—九年	二八,五九二,〇〇〇	二二,二五一,〇〇〇	(十)	三,六五九,〇〇〇
四ヶ年合計	九六,六五六,〇〇〇	八八,七九〇,〇〇〇	(十)	七,八六六,〇〇〇
二十四ヶ年合計	四五七,七〇〇,〇〇〇	四五四,一四一,〇〇〇	(十)	三,五五九,〇〇〇

604
38

